

令和元年度 青葉区区民意識調査 調査結果報告書

—概要版—

調査概要

調査の目的	青葉区にお住まいの皆さまの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。
調査対象	青葉区内在住の16歳以上の男女3,000人（うち外国人60人）
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送によるアンケート方式
回答率	47.6%（有効回答者数1,429人）
調査期間	令和元年7月23日～8月9日
設問分野	生活環境、定住意識、駅周辺のまちづくり、地域と生活、地域活動・就業意欲 図書サービス、子ども・子育て支援、地域福祉、防災・防犯、広報、健康
図表の見方	図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次のとおり。 n：その設問に対する回答者数

令和元年度 青葉区区民意識調査（概要版）

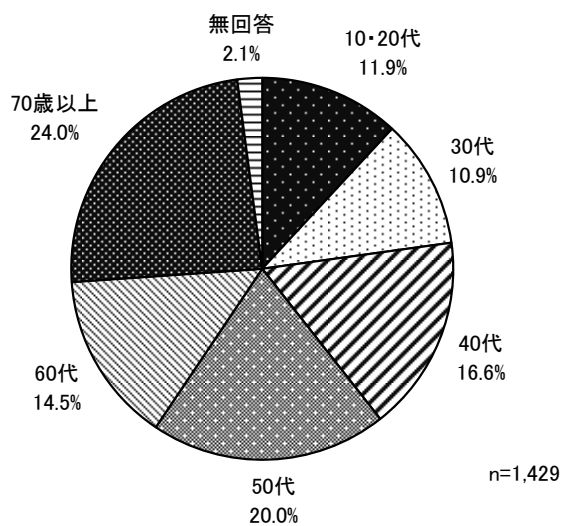
目次

I	回答者の属性	2
II	調査結果の概要	8
	1. お住まいの生活環境について	8
	2. 定住意識・区や市への愛着について	11
	3. 駅周辺のまちづくり・行動範囲について	14
	4. 地域と生活について	19
	5. 地域等での活動・就業意欲について	22
	6. 図書に関するサービスについて	28
	7. 子ども・子育て支援について	30
	8. 地域の福祉保健活動・認知症について	33
	9. 防災・防犯について	35
	10. 広報について	38
	11. 健康について	40

I 回答者の属性

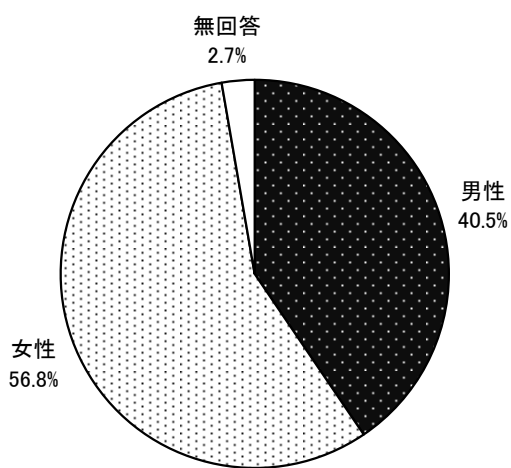
年齢 (F 1)

若年層（30代以下）2割強、中年層（40・50代）と高年層（60代以上）は、ともに4割弱となっている。



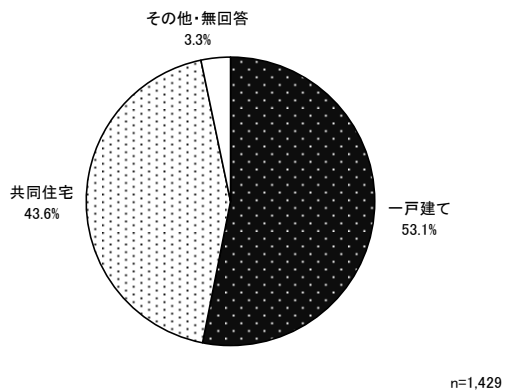
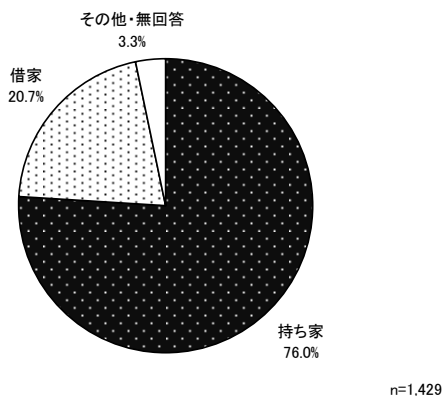
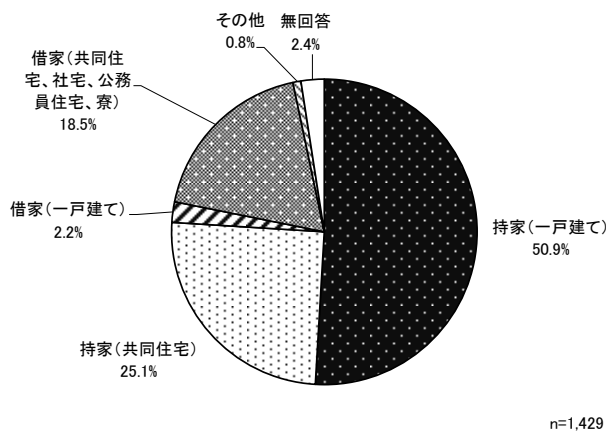
性別 (F 2)

女性が男性より16.3ポイント上回っている。



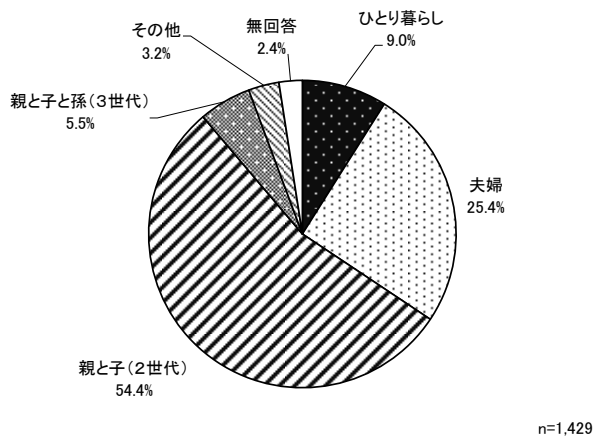
居住形態 (F 3)

「持家 (一戸建て)」と「持家 (共同住宅)」を合わせると、持家率は7割を超えている。



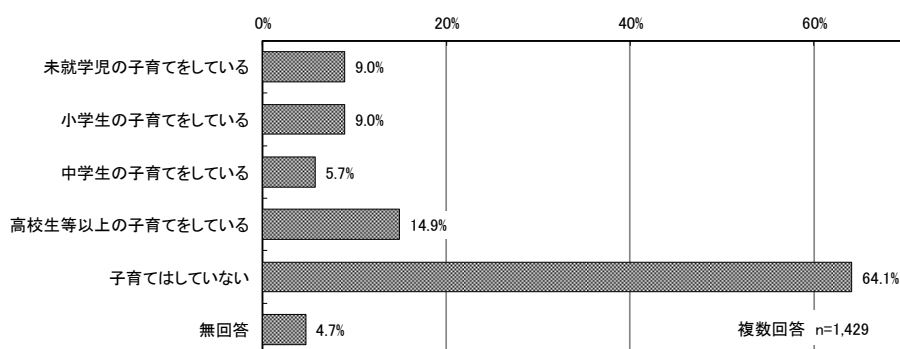
家族構成 (F 4)

「親と子 (2世代)」が全体の5割強、「夫婦」が3割弱となっている。



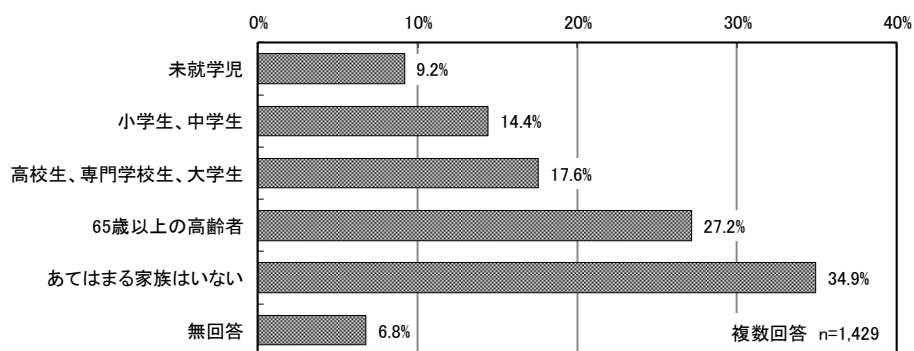
子育ての状況（F5）

「子育てをしている」の合計は、全体の4割弱となっている。



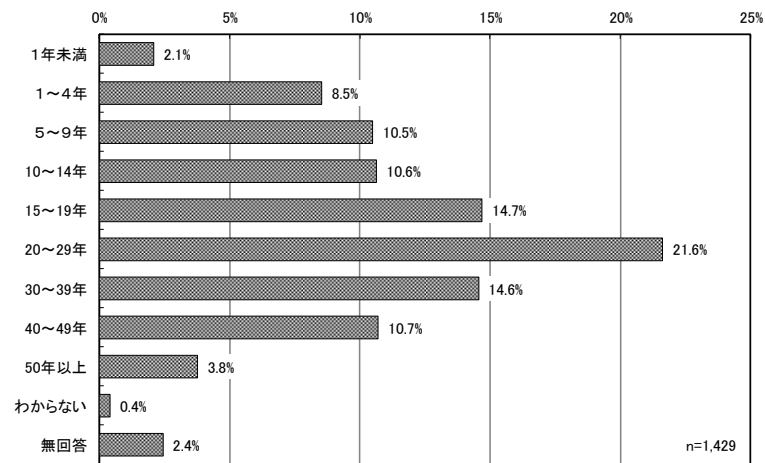
同居家族（F6）

「あてはまる家族はいない」を除いて、最も多いのは「65歳以上の高齢者」で3割弱となっている。



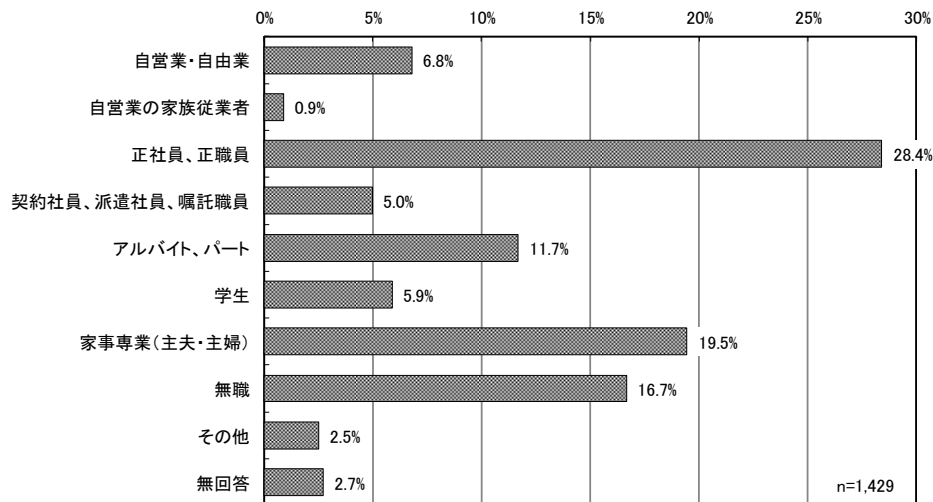
居住期間（F7）

最も多いのは「20～29年」で、15年以上が6割を超えている。



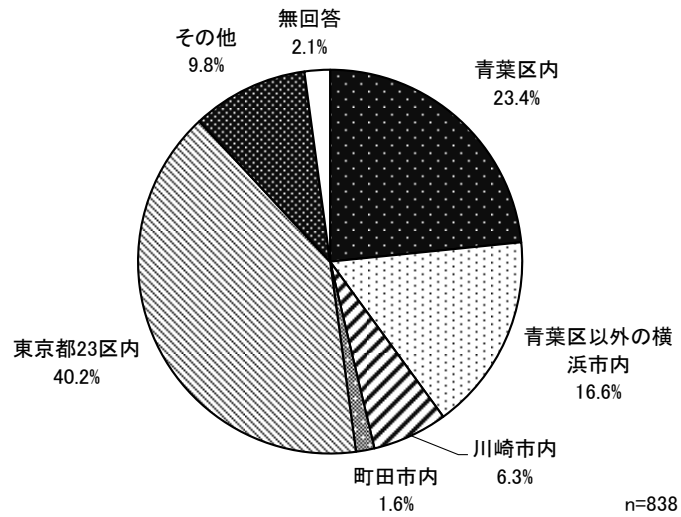
職業（F8）

最も多いのは「正社員、正職員」で全体の3割弱を占める。次いで「家事専業（主夫・主婦）」、「無職」、「アルバイト・パート」と続く。



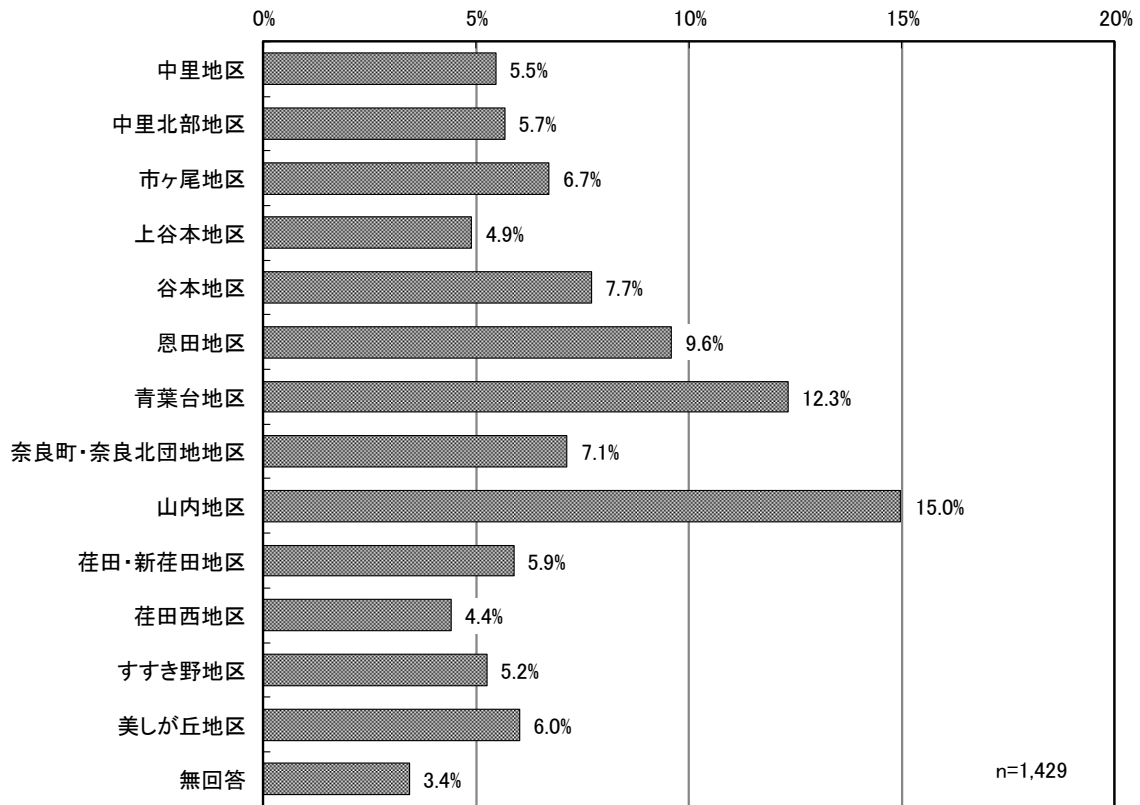
職場・学校の場合（F8-2）

最も多いのは「東京都23区内」で全体の4割を占める。次いで「青葉区内」、「青葉区以外の横浜市内」と続く。



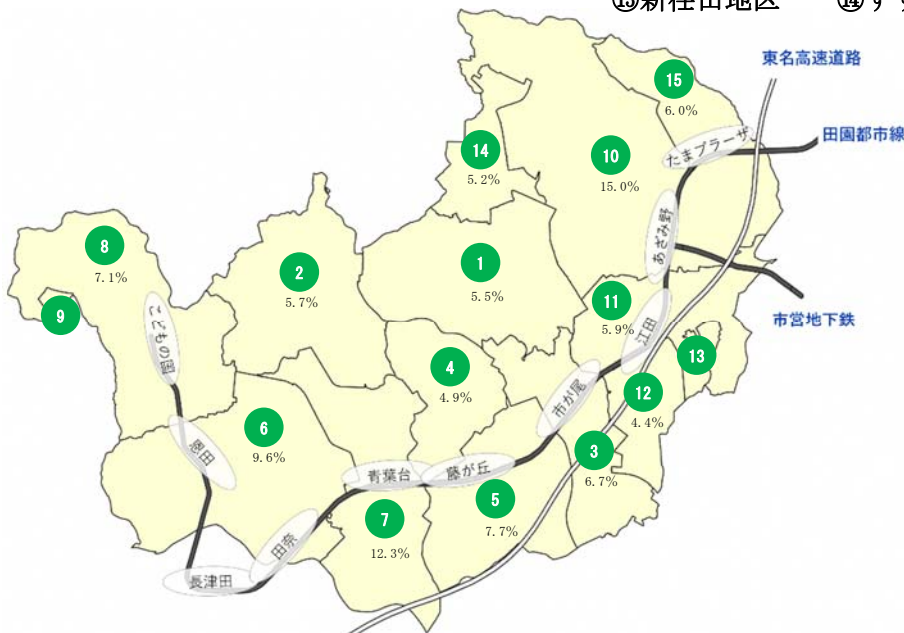
居住地区（F9・F10）

「山内地区」が最も多く、次いで「青葉台地区」、「恩田地区」となっている。



青葉区地区別エリア図

- ①中里地区 ②中里北部地区 ③市ヶ尾地区
- ④上谷本地区 ⑤谷本地区 ⑥恩田地区
- ⑦青葉台地区 ⑧奈良町地区 ⑨奈良北団地地区
- ⑩山内地区 ⑪荏田地区 ⑫荏田西地区
- ⑬新荏田地区 ⑭すずき野地区 ⑮美しが丘地区

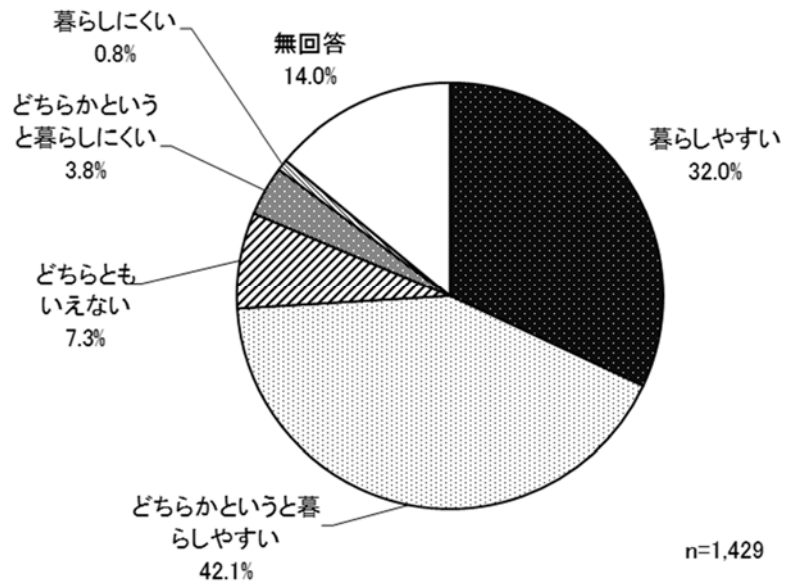


Ⅱ 調査結果の概要

1. お住まいの生活環境について

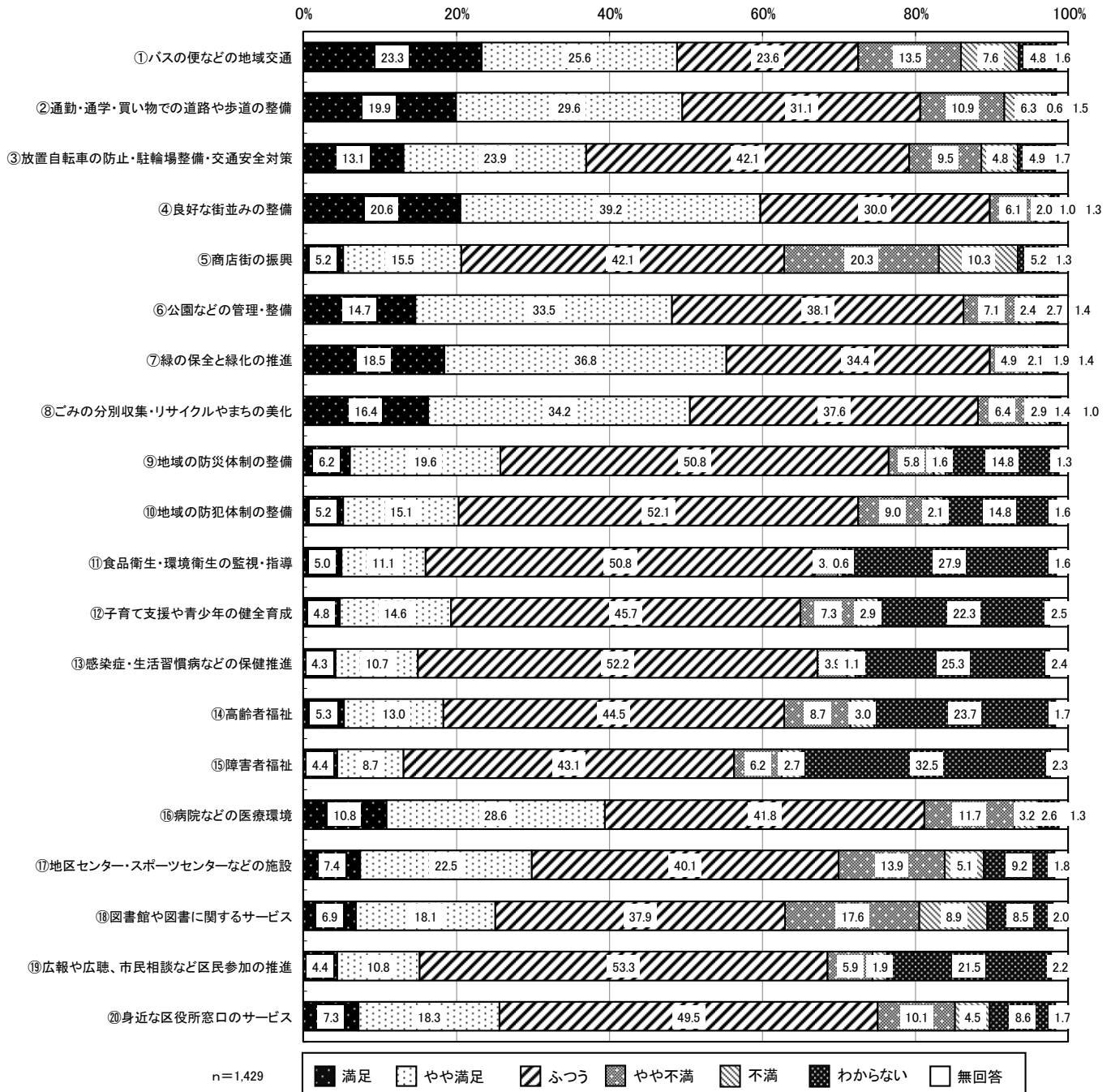
現在のお住まいの生活環境について（問1）

「暮らしやすい」が3割強、「どちらかという暮らしやすい」が4割強で、合計すると7割強が暮らしやすいと感じている。



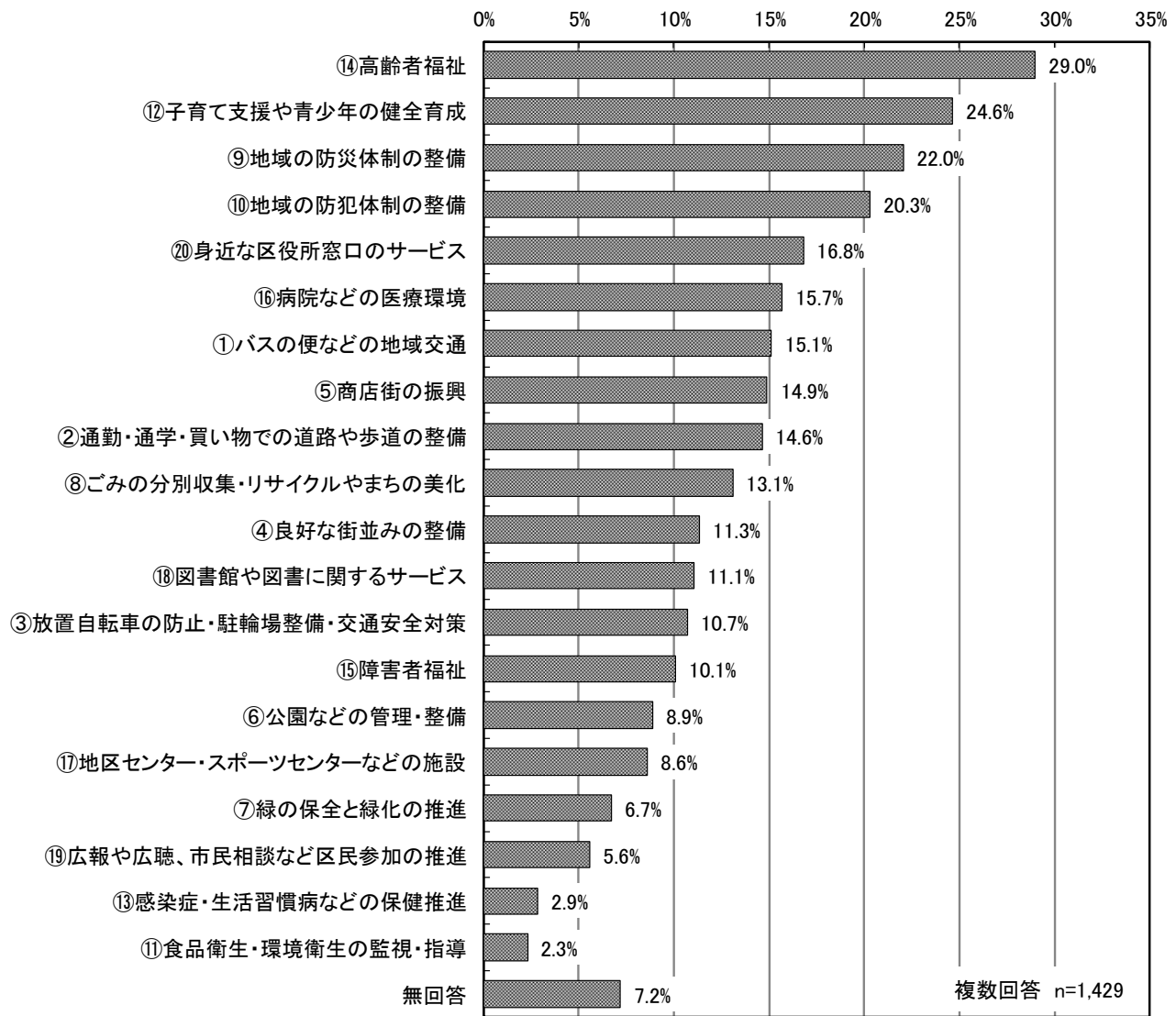
現在の生活環境に関する満足度（問2）

「満足」「やや満足」を合わせた数値の上位項目は、「④良好な街並みの整備」「⑦緑の保全と緑化の推進」「⑧ごみの分別収集・リサイクルやまちの美化」で、「満足」「やや満足」を合わせた数値は、5割以上となっている。



区役所が重要視して取り組むべき課題（問3）

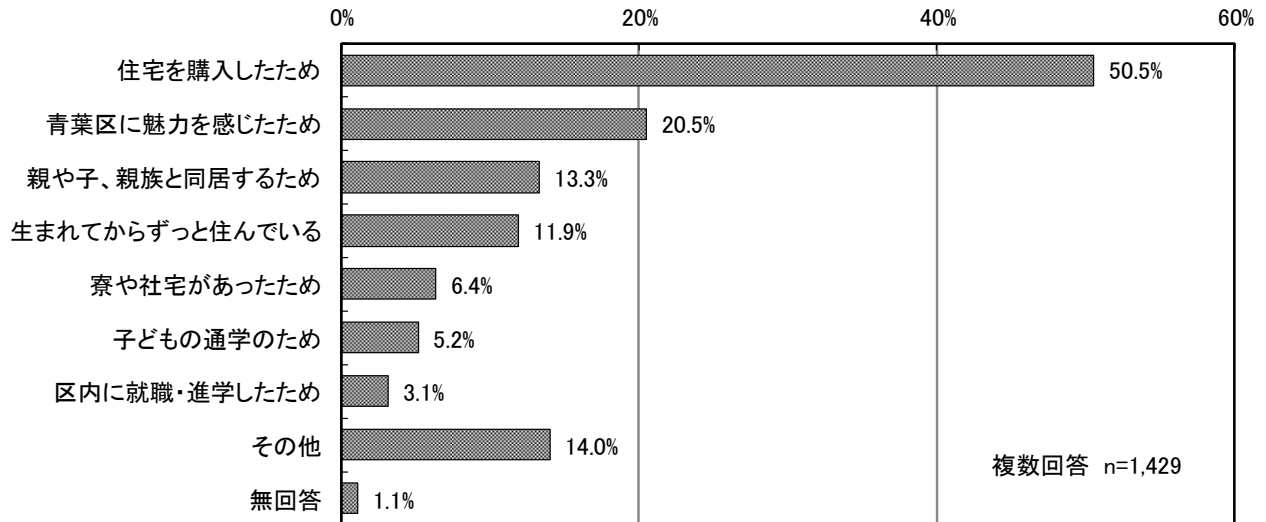
「⑭高齢者福祉」が最も多く3割弱で、次いで「⑫子育て支援や青少年の健全育成」、「⑨地域の防災体制の整備」、「⑩地域の防犯体制の整備」が2割台となっている。



2. 定住意識・区や市への愛着について

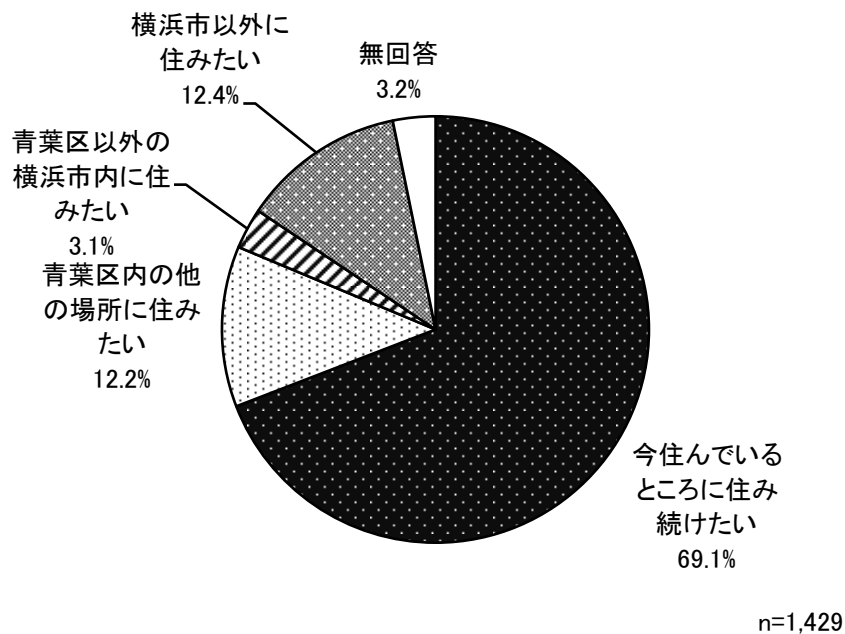
青葉区に住んだきっかけや理由（問4）

「住宅を購入したため」が約5割で最も多く、次いで「青葉区に魅力を感じたため」が約2割となっている。



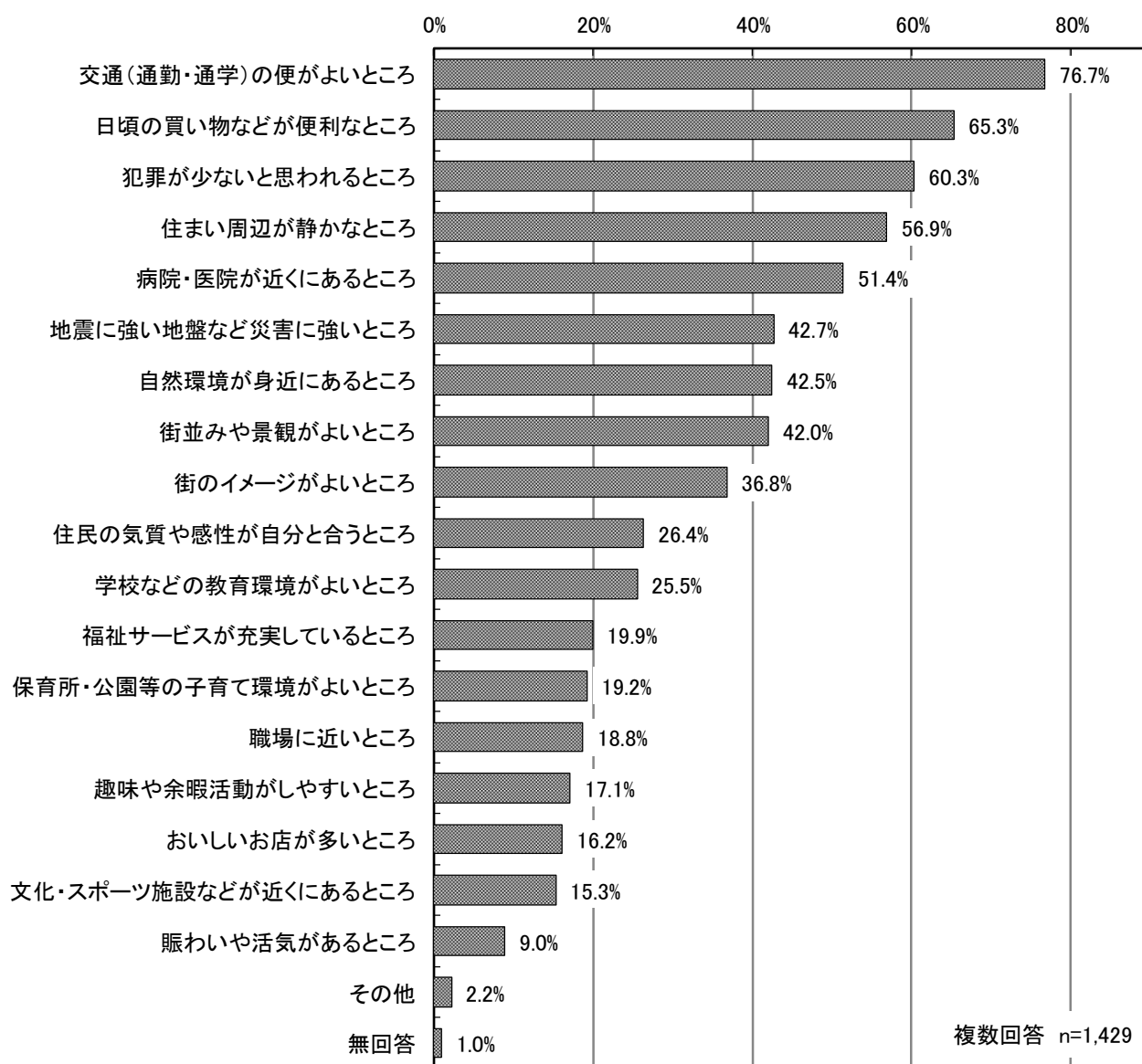
定住意向（問5）

「今住んでいるところに住み続けたい」が約7割、「青葉区内の他の場所に住みたい」が1割強で、青葉区内への定住意向は、8割を超えている。



住む地域を選ぶときに重視すること（問6）

「交通（通勤・通学）の便がよいところ」が7割を超えて最も多く、次いで「日頃の買い物などが便利なおところ」と「犯罪が少ないと思われるところ」が6割台となっている。

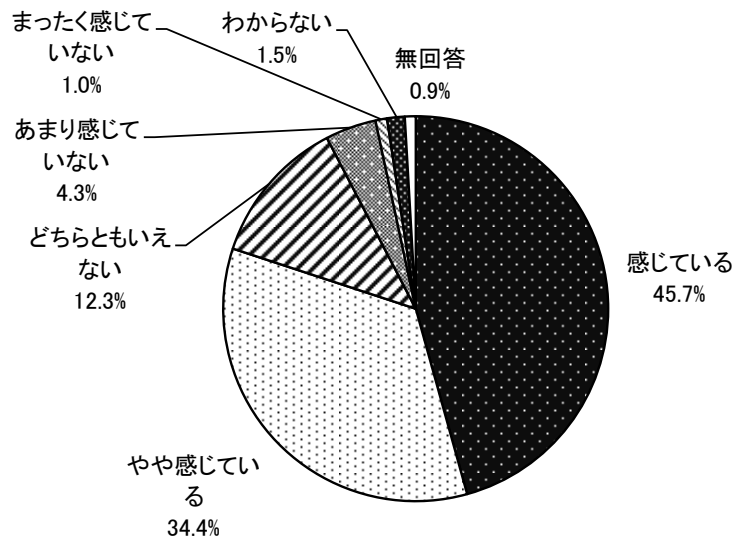


青葉区、横浜市に対する愛着度（問7）

青葉区については、愛着や誇りを「感じている」、「やや感じている」を合わせると、約8割の人が愛着を感じている。

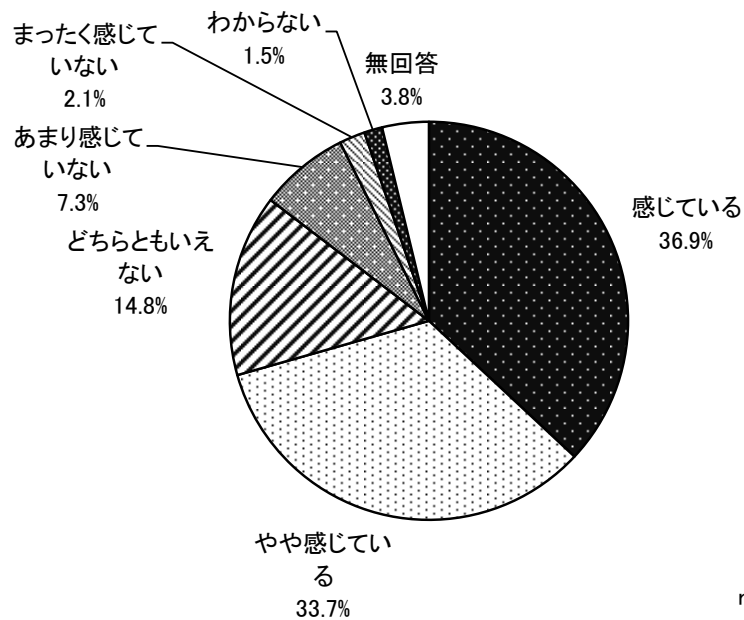
横浜市については、「感じている」、「やや感じている」を合わせると約7割の人が愛着を感じている。

<青葉区>



n=1,429

<横浜市>

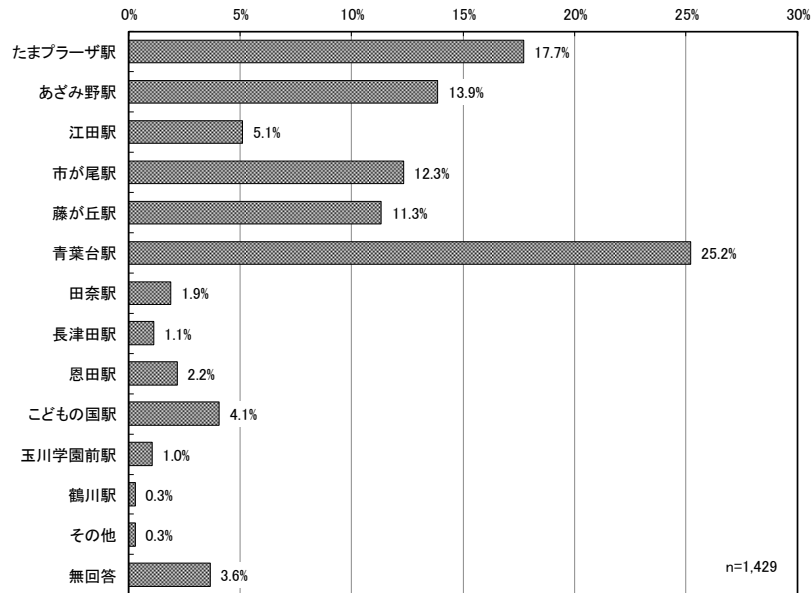


n=1,429

3. 駅周辺のまちづくり・行動範囲について

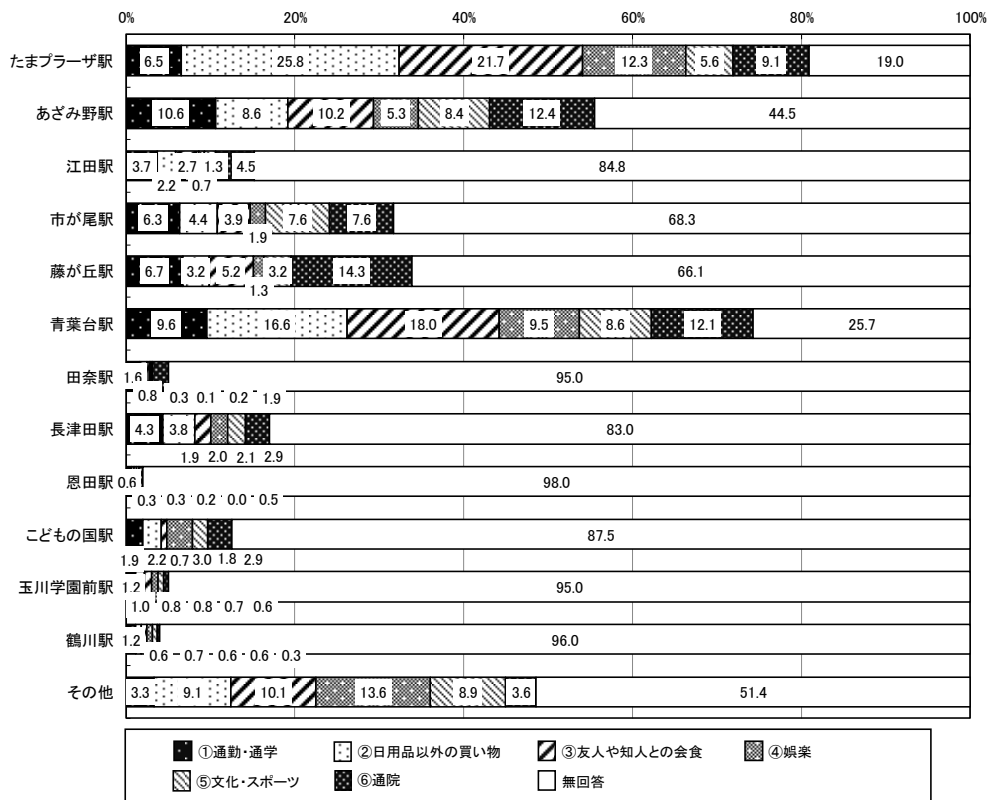
最寄り駅（問8（1））

「青葉台駅」が全体の4分の1で最も多く、ついで「たまプラーザ駅」、「あざみ野駅」となっている。



駅の利用目的（問8（2））

「①通勤・通学」では「あざみ野駅」、「②日用品以外の買い物」、「③友人や知人との会食」は「たまプラーザ駅」、「⑥通院」は「藤が丘駅」、「④娯楽」、「⑤文化・スポーツ」は「その他の駅」がそれぞれ最も多くなっている。



最寄り駅周辺の評価（問 8（3））

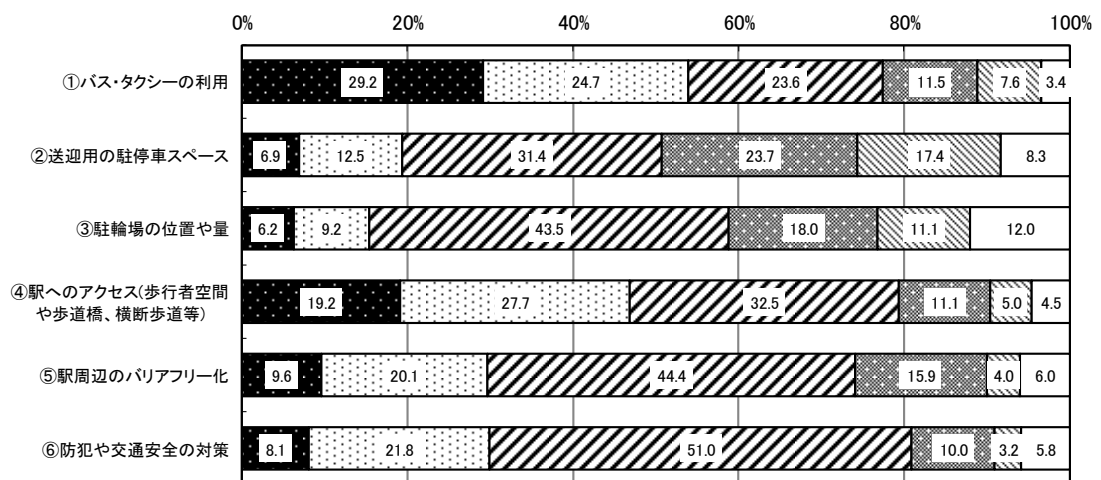
1. 交通や安全性の満足度

「①バス・タクシーの利用」「④駅へのアクセス（歩行者空間や歩道橋、横断歩道等）」の満足度が高く、「②送迎用の駐停車スペース」「③駐輪場の位置や量」の不満足度が高めである。

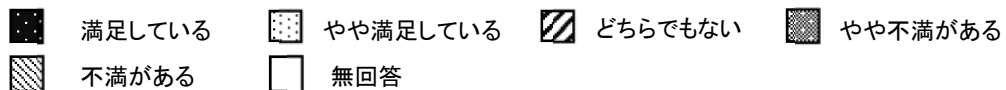
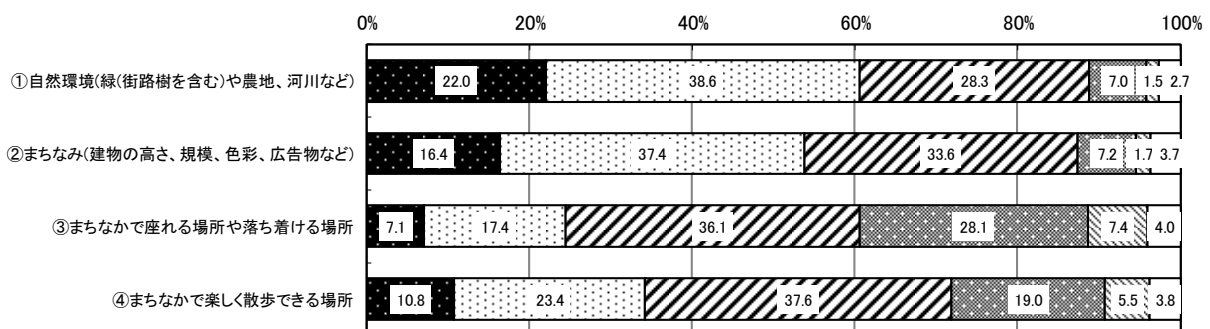
2. うるおいや居心地の満足度

「①自然環境（緑（街路樹を含む）や農地、河川など）」「②まちなみ（建物の高さ、規模、色彩、広告物など）」の満足度が高く、「③まちなかで座れる場所や落ち着ける場所」の不満足度がやや高めである。

1. 交通や安全性の満足度



2. うるおいや居心地の満足度



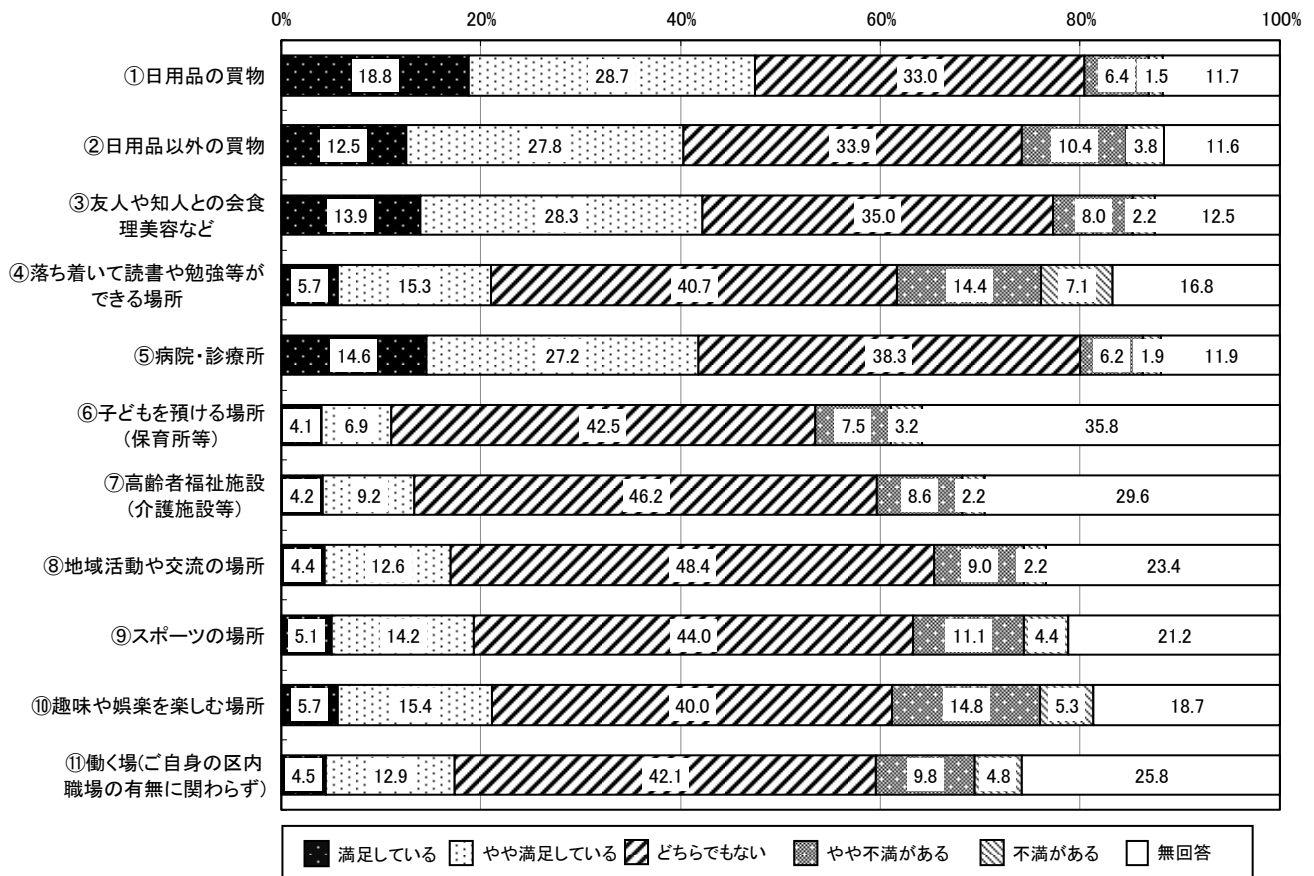
最寄り駅周辺及び区全体の商業、業務、サービス等の機能の評価、移動手段（問9）

<区全体の商業、業務、サービス等の機能について>

「①日用品の買物」「②日用品以外の買物」「③友人や知人との会食 理美容など」「⑤病院・診療所」の「満足している」と「やや満足している」を合計した数値は4割を超えている。

「④落ち着いた読書や勉強等ができる場所」「⑩趣味や娯楽を楽しむ場所」の「やや不満がある」と「不満がある」を合計した数値は2割を超えている。

全体的に「どちらでもない」が多い傾向にあり、全ての項目で3割以上になっている。



くもっともよく利用する場所までの主な移動手段>

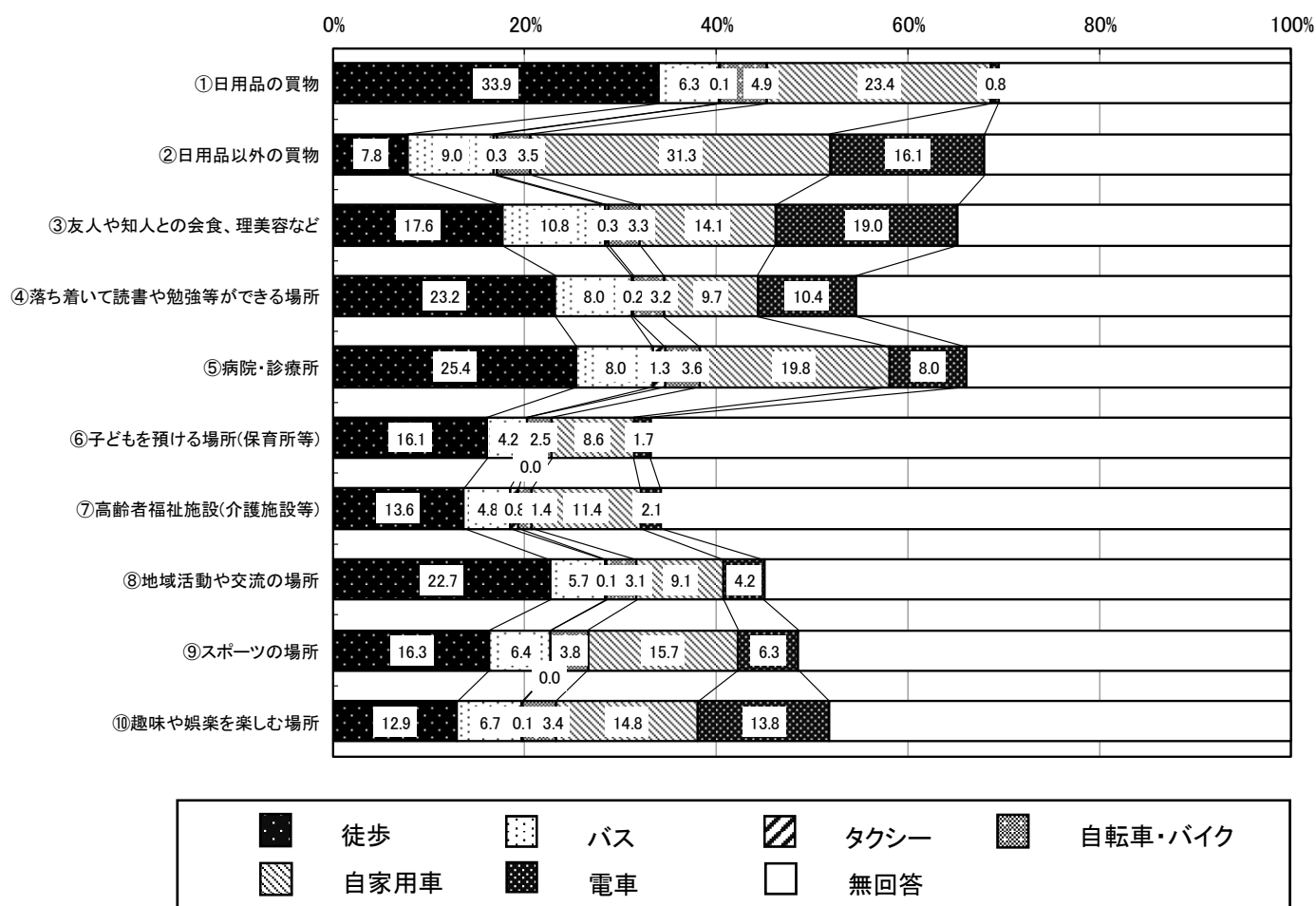
全体的に「徒歩」と「自家用車」の割合が高い。

「①日用品の買物」「⑤病院・診療所」「⑥子どもを預ける場所（保育所等）」「⑦高齢者福祉施設（介護施設等）」「⑧地域活動や交流の場所」「⑨スポーツの場所」は「徒歩」が最も多く、次いで「自家用車」が多い。

「②日用品以外の買物」「⑩趣味や娯楽を楽しむ場所」は「自家用車」が最も多く、次いで「電車」が多い。

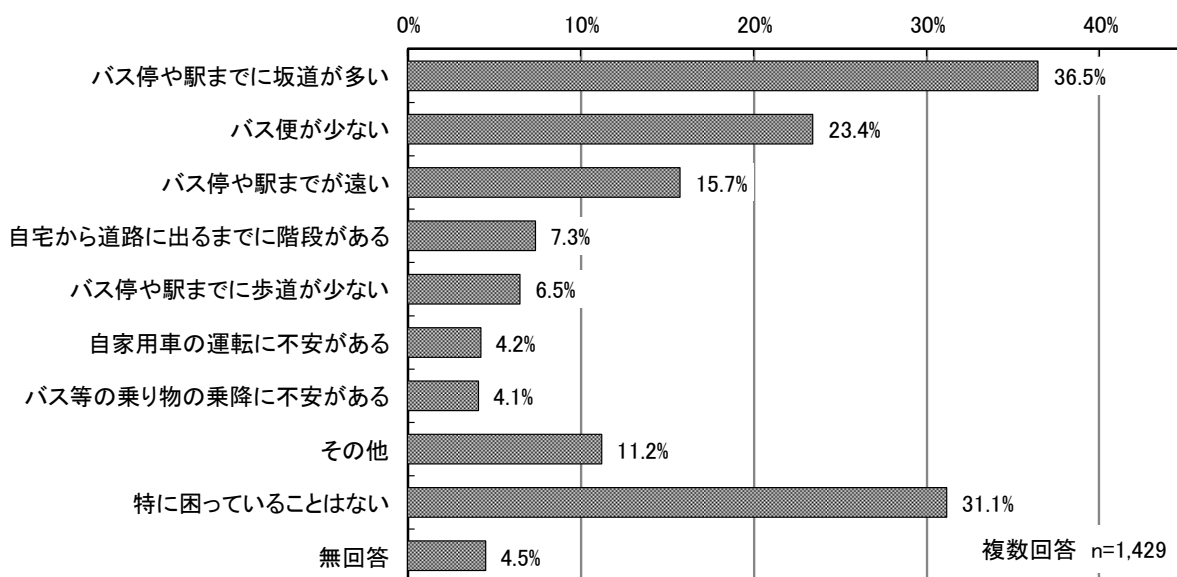
「③友人や知人との会食 理美容など」は「電車」が最も多く、次いで「徒歩」が多い。

「④落ち着いた読書や勉強等ができる場所」は「徒歩」が最も多く、次いで「電車」が多い。



外出時に困ること（問10）

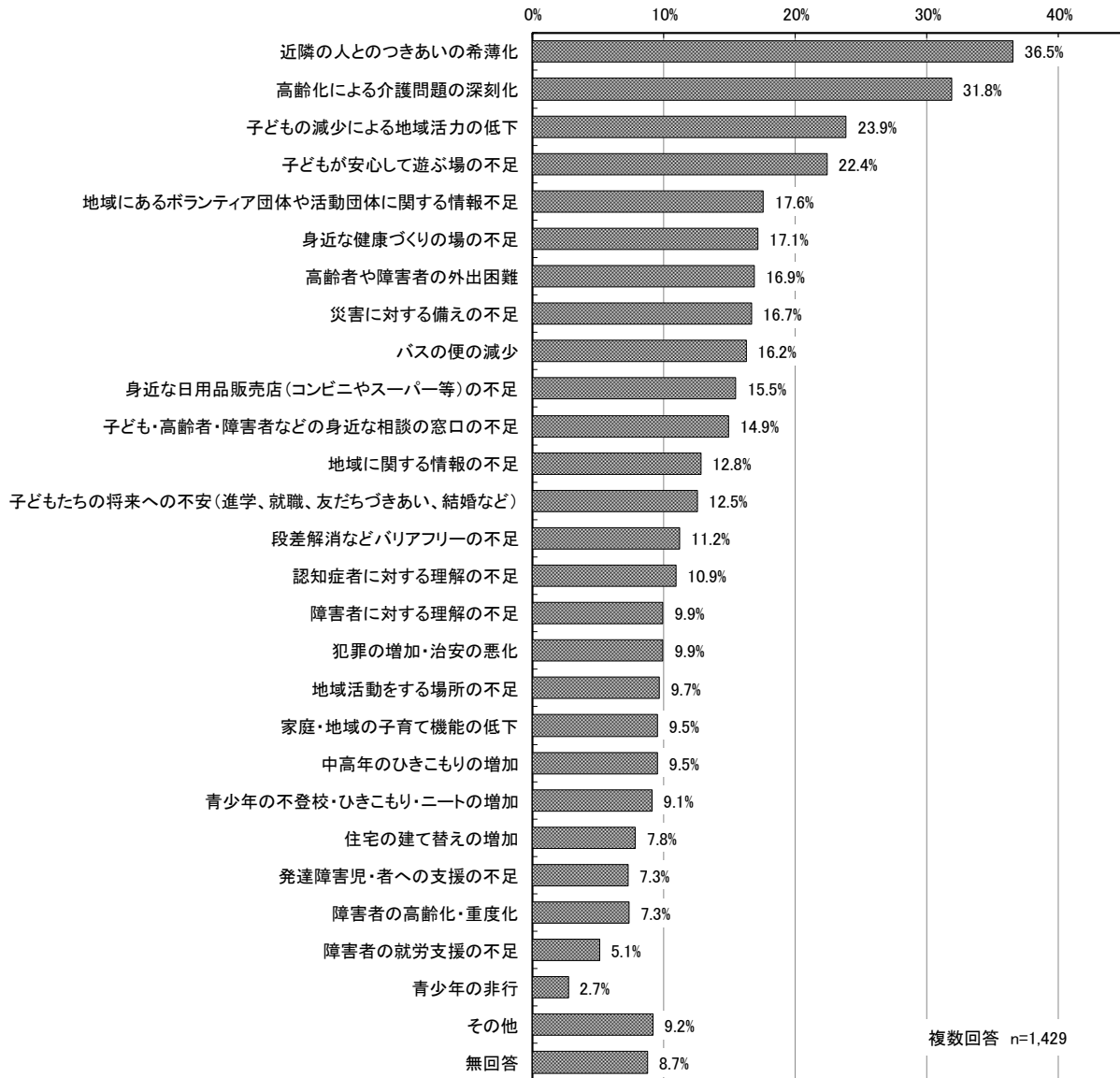
困っていることとして多いのは、「バス停や駅までに坂道が多い」が4割弱、「バス便が少ない」が2割強となっている。



4. 地域と生活について

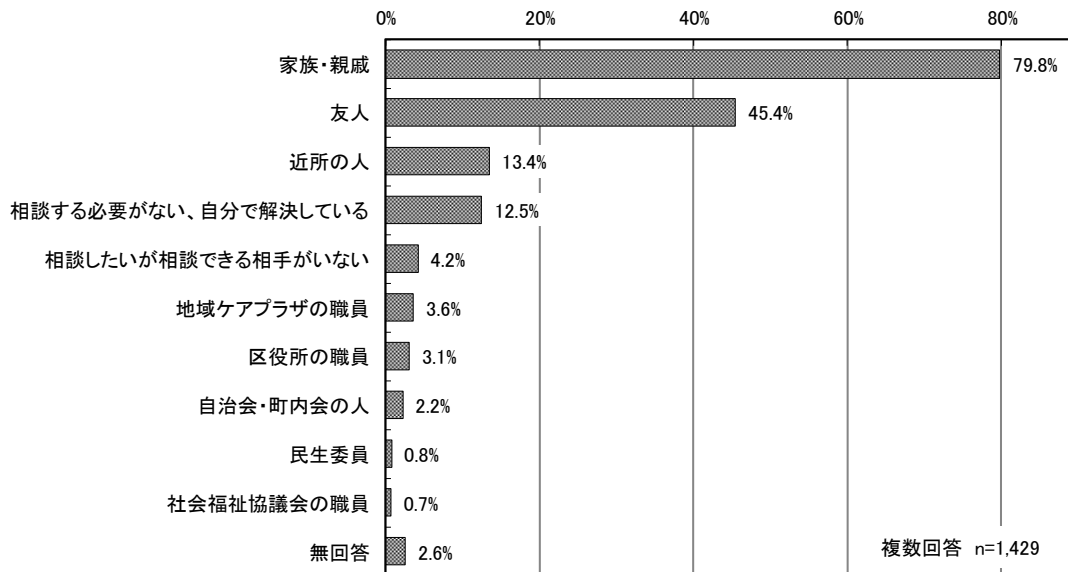
居住地域における課題や問題（問11）

最も多いのは「近隣の人とのつきあいの希薄化」で4割弱、次いで「高齢化による介護問題の深刻化」が3割強、「子どもの減少による地域活力の低下」、「子どもが安心して遊ぶ場の不足」が2割台となっている。



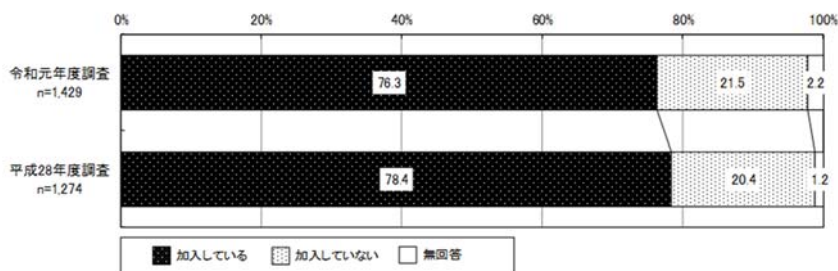
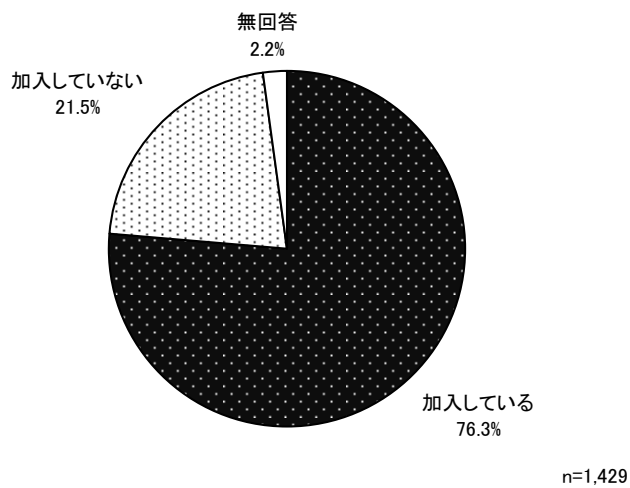
困ったときの相談相手（問 12）

最も多いのは「家族・親戚」で約8割、次いで「友人」が5割弱となっている。



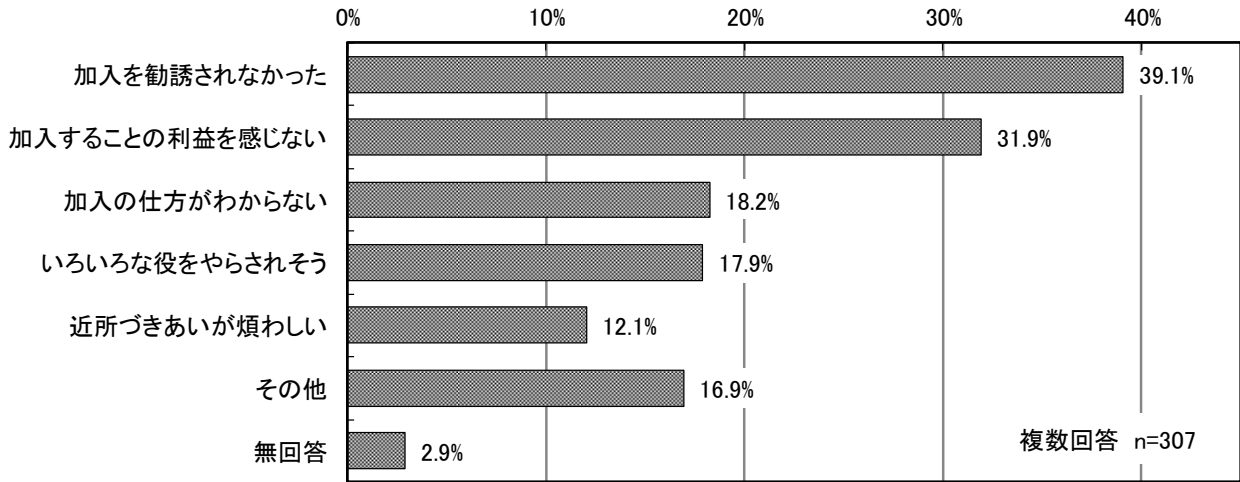
自治会・町内会への加入状況（問 13）

「加入している」が8割弱。平成28年度調査より、2.1ポイント減少している。



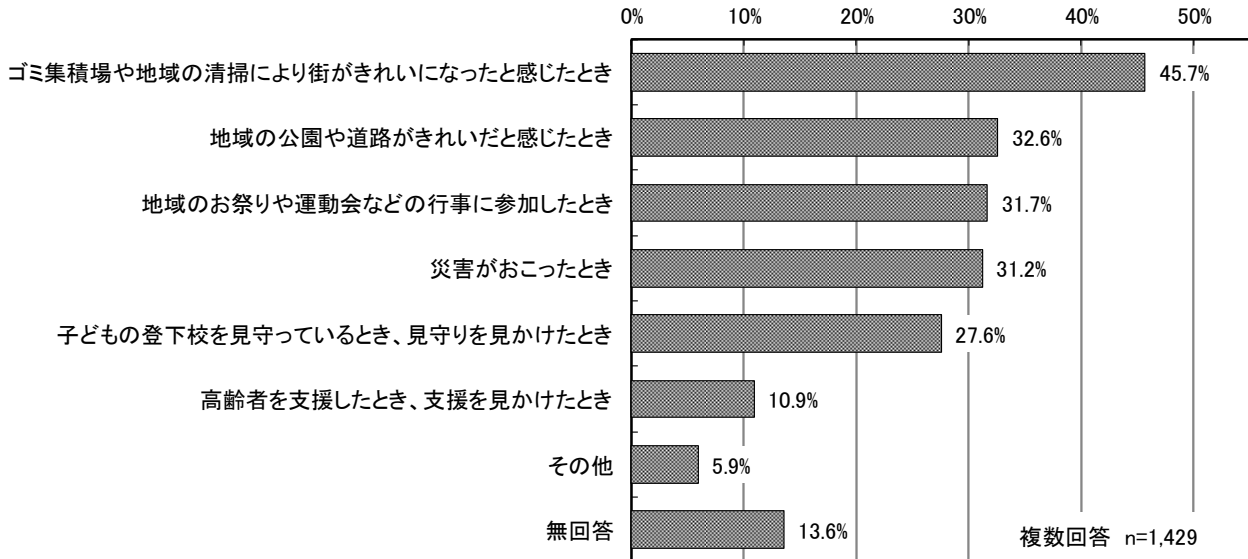
自治会・町内会へ加入していない理由（問 13-1）

「加入を勧誘されなかった」が約4割、「加入することの利益を感じない」が3割強で多くなっている。



自治会・町内会があって良かったと感じるとき（問 14）

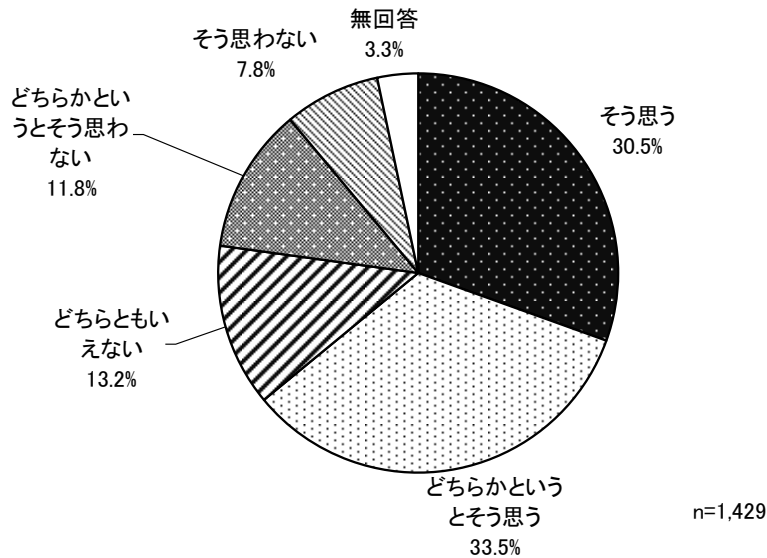
「ゴミ集積場や地域の清掃により街がきれいになったと感じたとき」が5割弱で最も多い。



5. 地域等での活動・就業意欲について

自由時間を満足に持っているか（問 15）

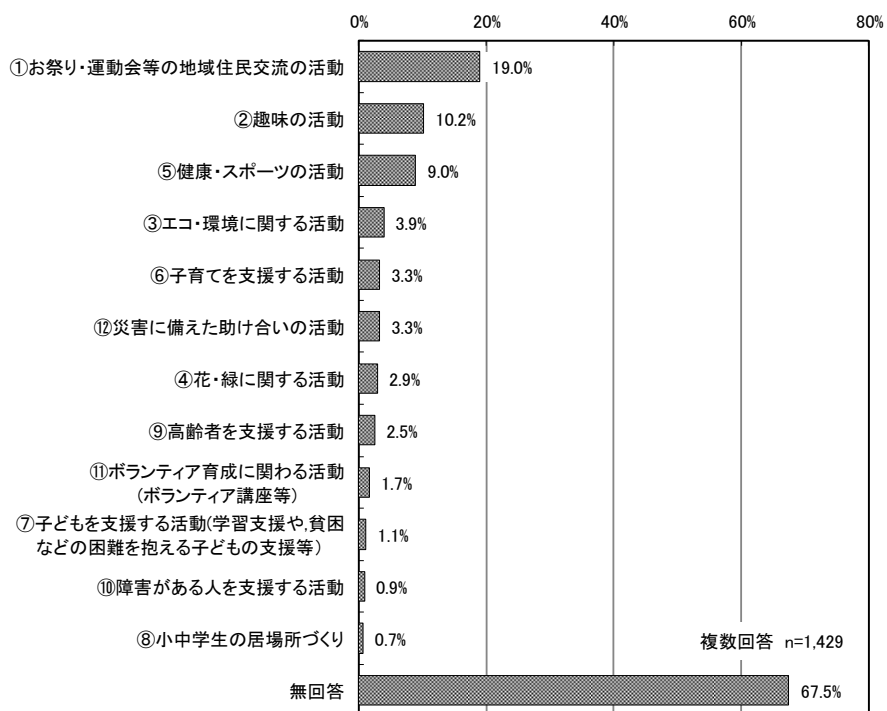
「どちらかというと思う」と「そう思う」を合わせて6割強となっている。



地域での活動について（問 16）

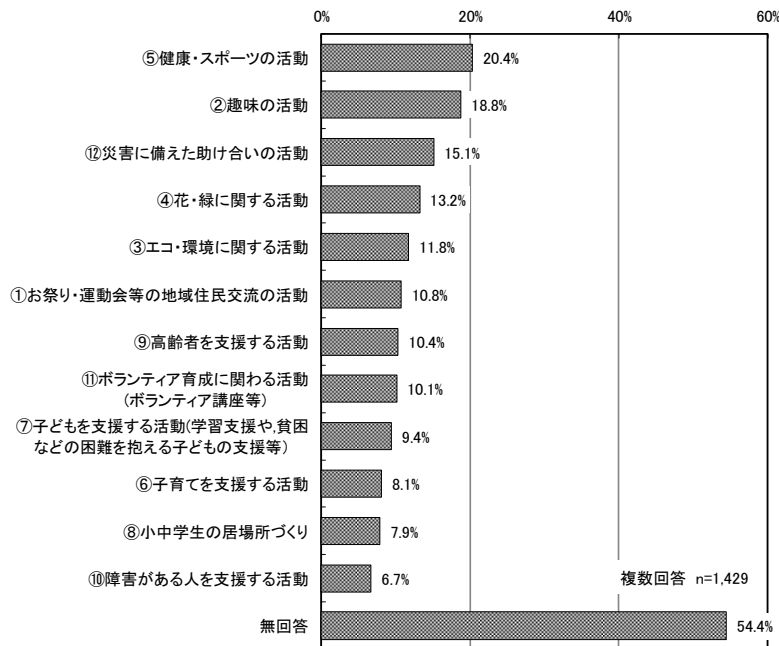
（1）あなたが参加している活動

「①お祭り・運動会等の地域住民交流の活動」が約2割で最も多く、次いで「②趣味の活動」、「⑤健康・スポーツの活動」が約1割となっている。



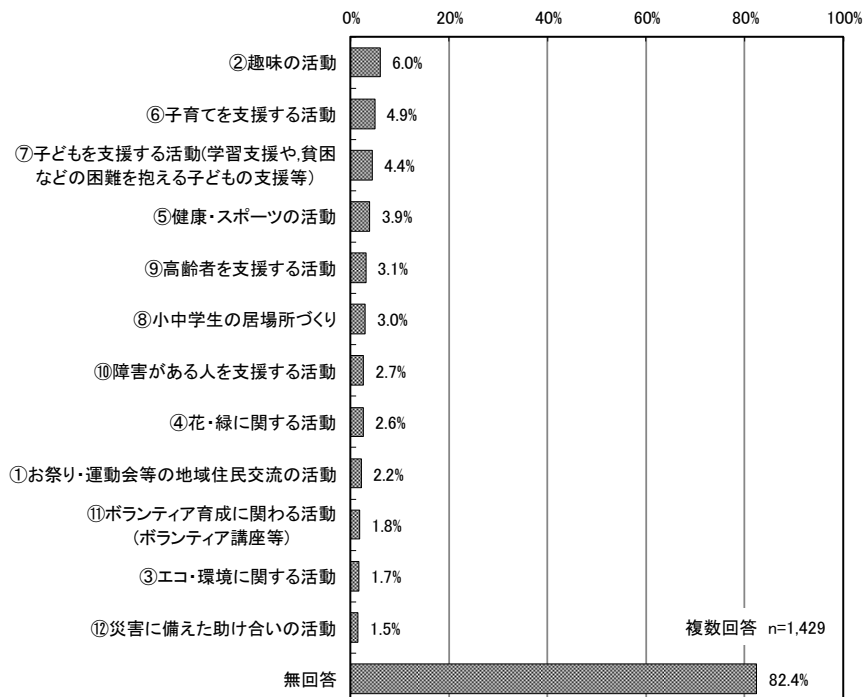
(2) 参加したい活動

「⑤健康・スポーツの活動」が約2割で最も多く、次いで「②趣味の活動」が2割弱となっている。



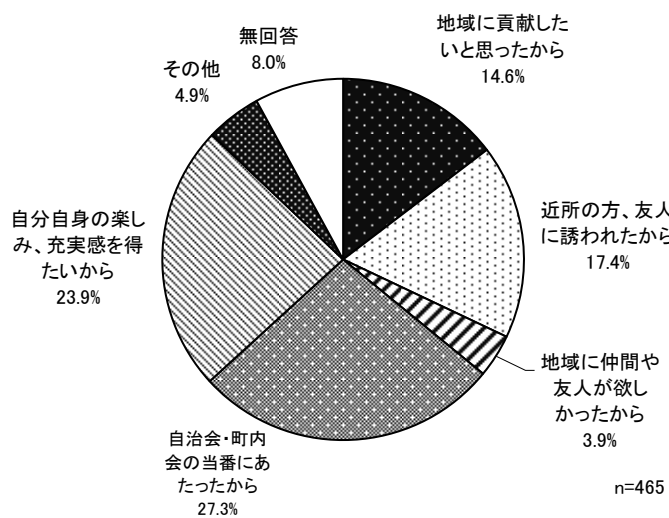
(3) 自身の経験や得意なことを生かせそうな活動

全体的に回答率が低く、いずれも1割に満たない。「②趣味の活動」が最も多く、「⑥子育てを支援する活動」、「⑦子どもを支援する活動(学習支援や、貧困などの困難を抱える子どもの支援等)」と続く。



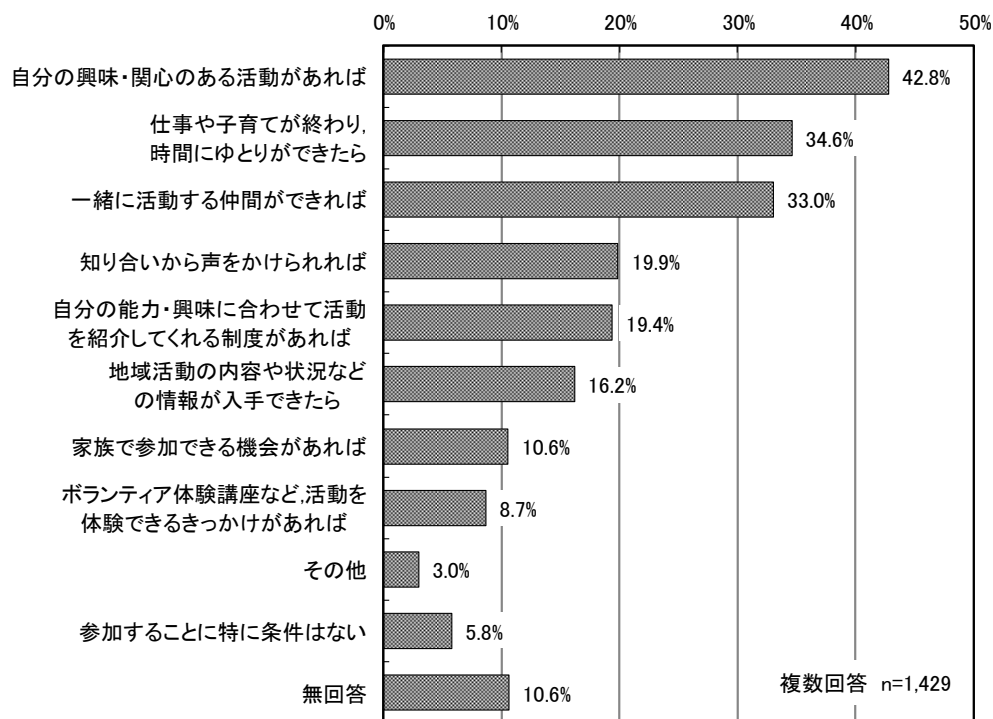
初めて地域等での活動に参加したきっかけ（問 16-1）

「自治会・町内会の当番にあたったから」が3割弱で最も多く、次いで「自分自身の楽しみ、充実感を得たいから」、「近所の方、友人に誘われたから」と続く。



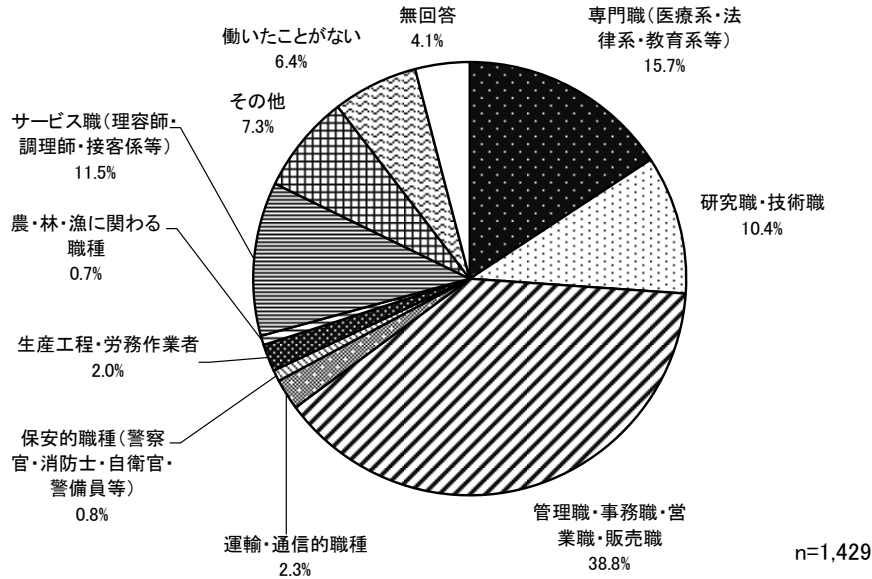
地域活動の参加または継続に必要な条件（問 17）

「自分の興味・関心のある活動があれば」が4割強で最も多く、次いで「仕事や子育てが終わり、時間にゆとりができたなら」と「一緒に活動する仲間ができれば」が3割台となっている。



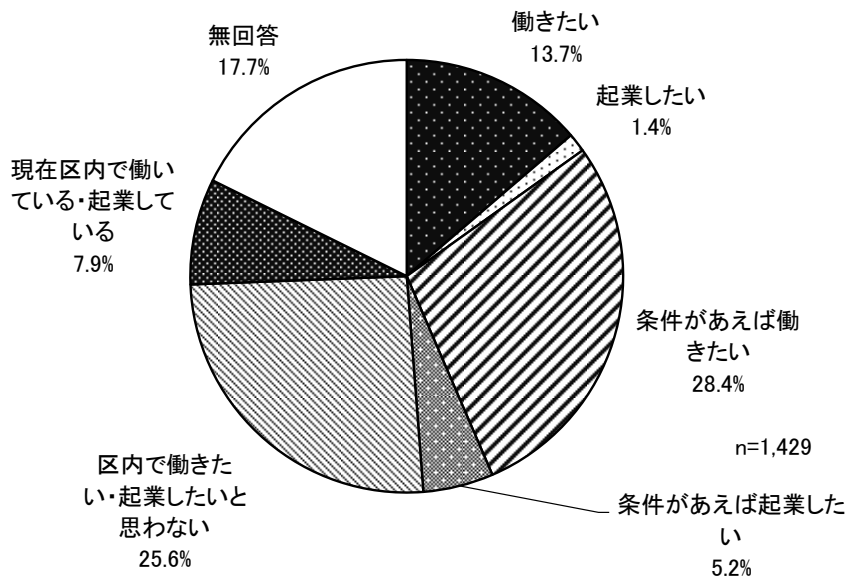
現在または過去の職種（問 18）

「管理職・事務職・営業職・販売職」が4割弱で最も多く、次いで「専門職（医療系・法律系・教育系等）」「サービス職（理容師・調理師・接客係等）」「研究職・技術職」が1割台となっている。



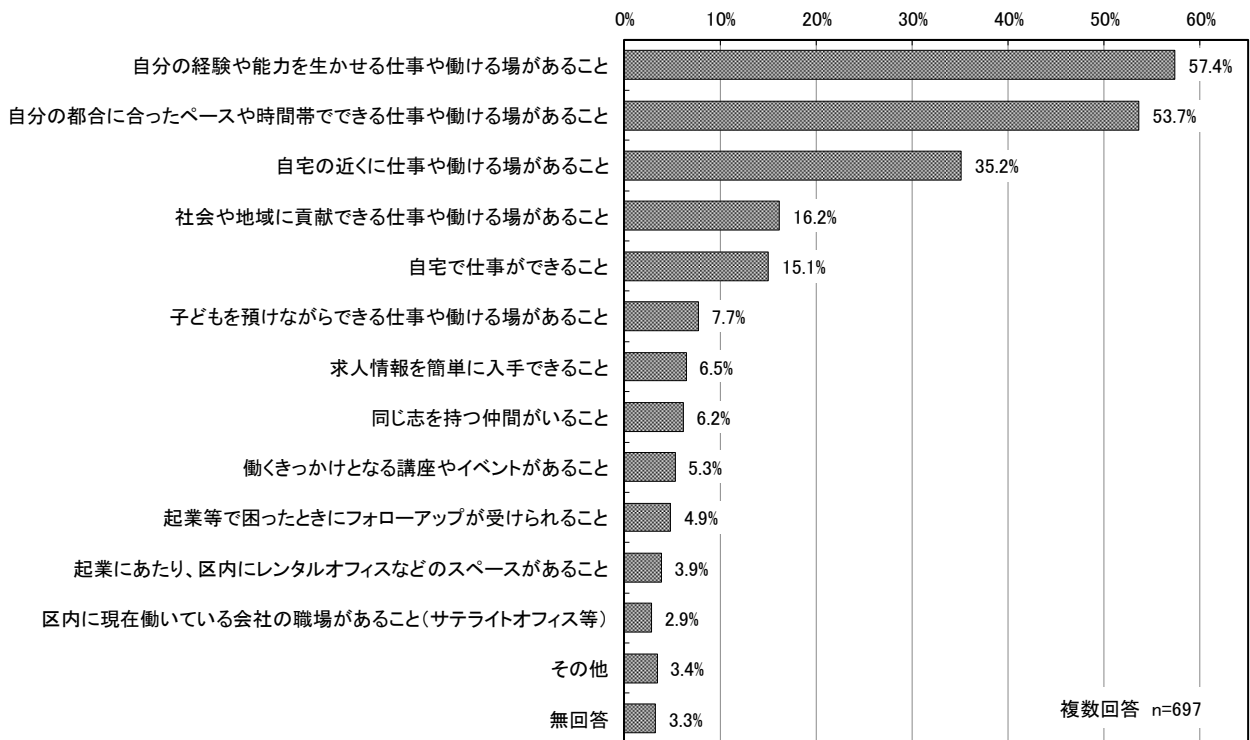
青葉区内で働く・起業する希望（問 19）

「条件があれば働きたい」が3割弱で最も多く、これに「働きたい」、「起業したい」及び「条件があれば起業したい」を合わせると、約半数が青葉区内で働きたい・起業したいと回答している。



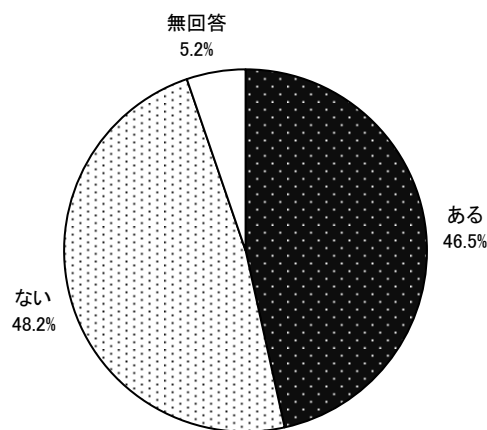
区内で働く・起業するための必要条件（問 19-1）

「自分の経験や能力を生かせる仕事や働ける場があること」が6割弱で最も多く、次いで「自分の都合に合ったペースや時間帯でできる仕事や働ける場があること」が5割強、「自宅の近くに仕事や働ける場があること」が4割弱となっている。



知り合い・友人と活動する機会の有無（問 20）

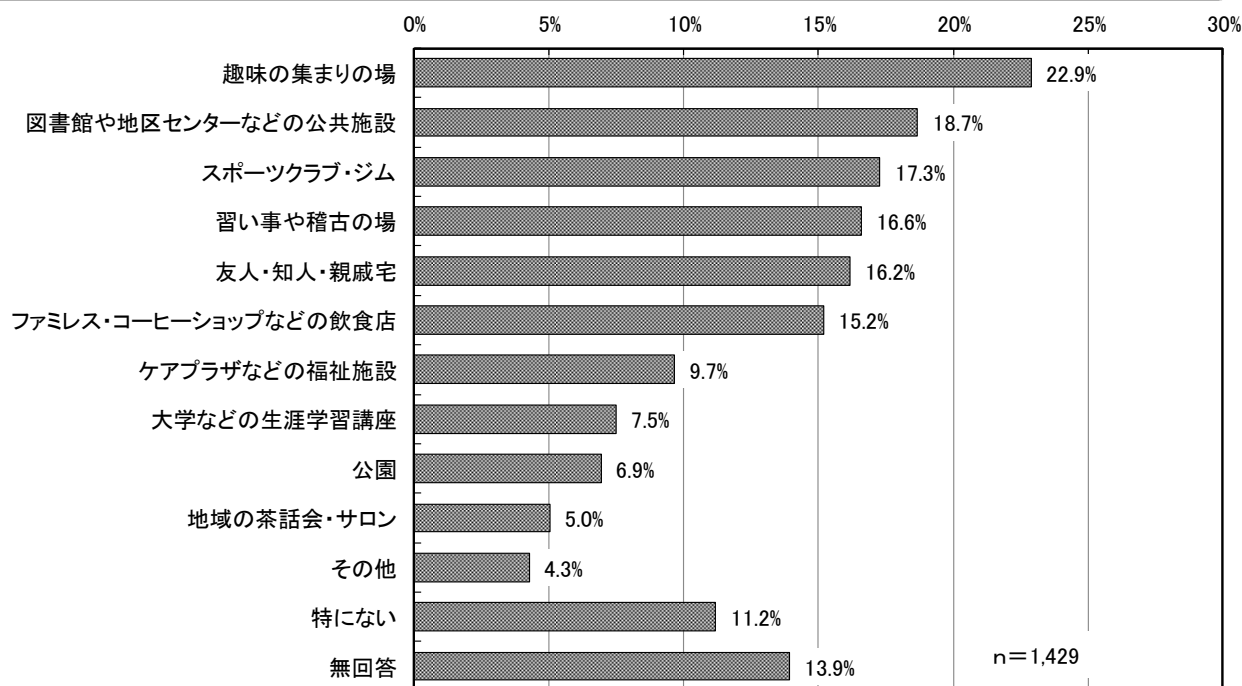
「ある」「ない」ともにほぼ半数となっている。



n=1,429

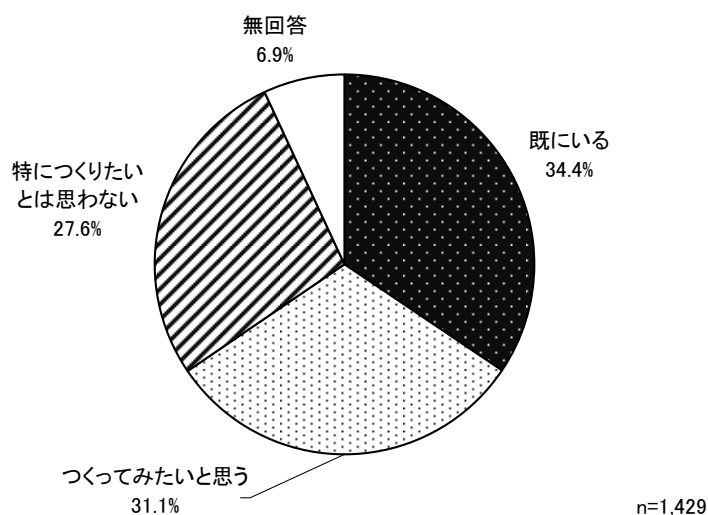
知り合い・友人と活動する場所（問 21）

「趣味の集まりの場」が2割強で最も多く、次いで「図書館や地区センターなどの公共施設」、「スポーツクラブ・ジム」、「習い事や稽古の場」、「友人・知人・親戚宅」、「ファミレス・コーヒーショップなどの飲食店」が1割台となっている。



地域で知り合いや仲間をつくる希望（問 22）

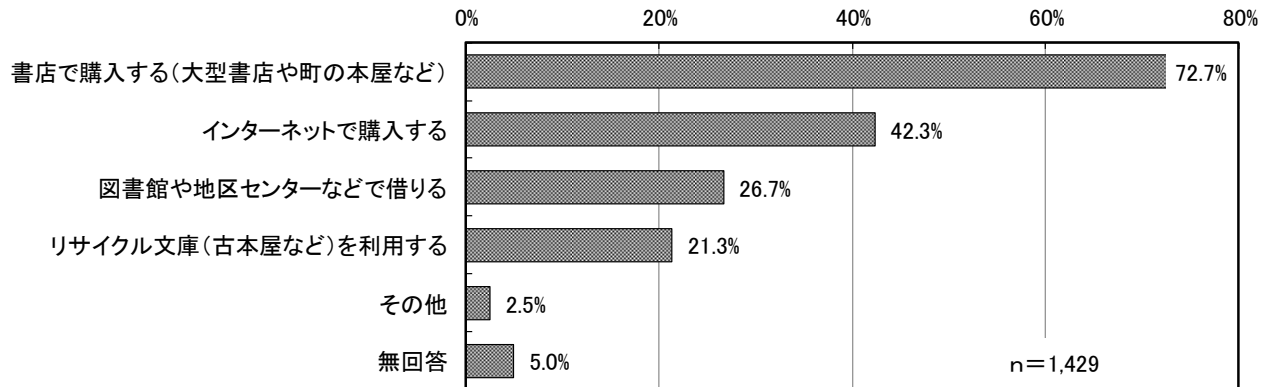
「既にいる」と「つくってみたいと思う」が、それぞれ3割強となっている。



6. 図書に関するサービスについて

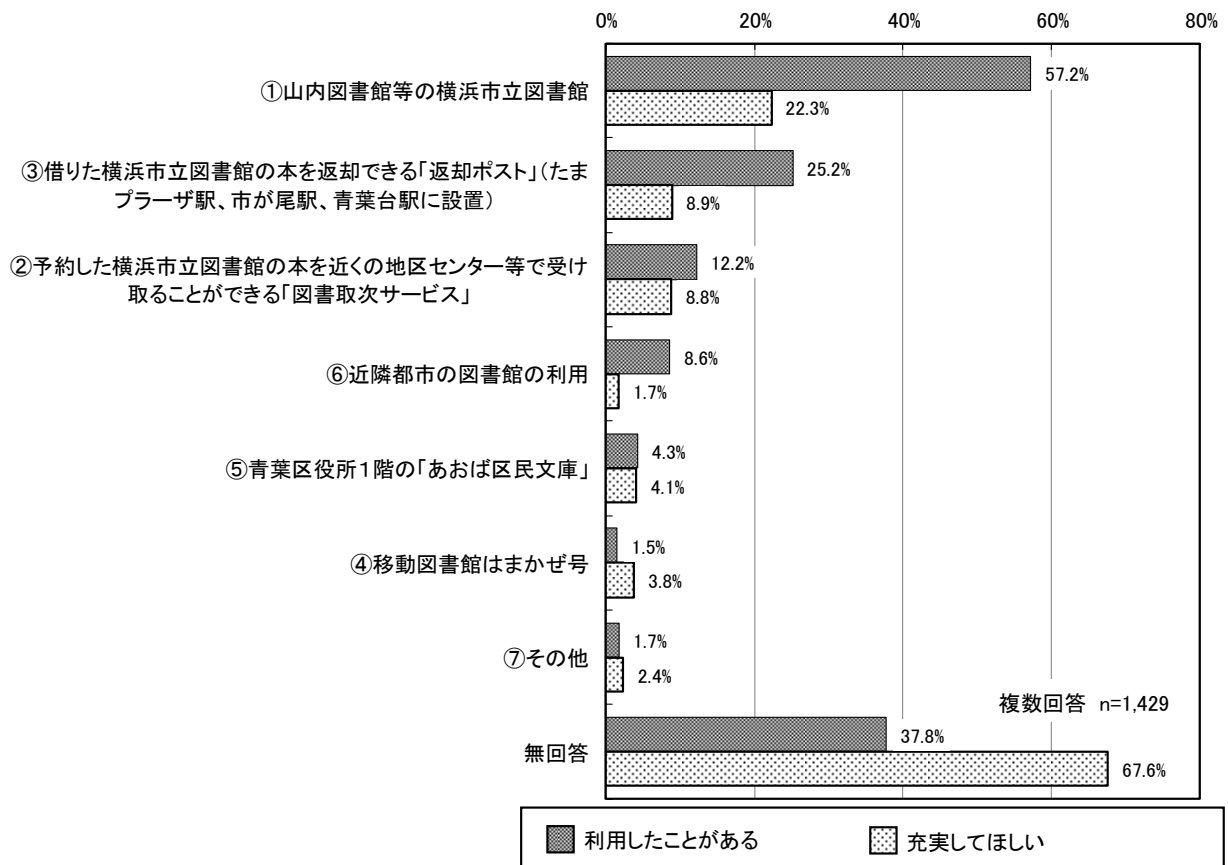
読みたい本の入手方法（問 23）

「書店で購入する（大型書店や町の本屋など）」が7割強で最も多く、次いで「インターネットで購入する」が4割強、「図書館や地区センターなどで借りる」が3割弱、「リサイクル文庫（古本屋など）を利用する」が2割強となっている。



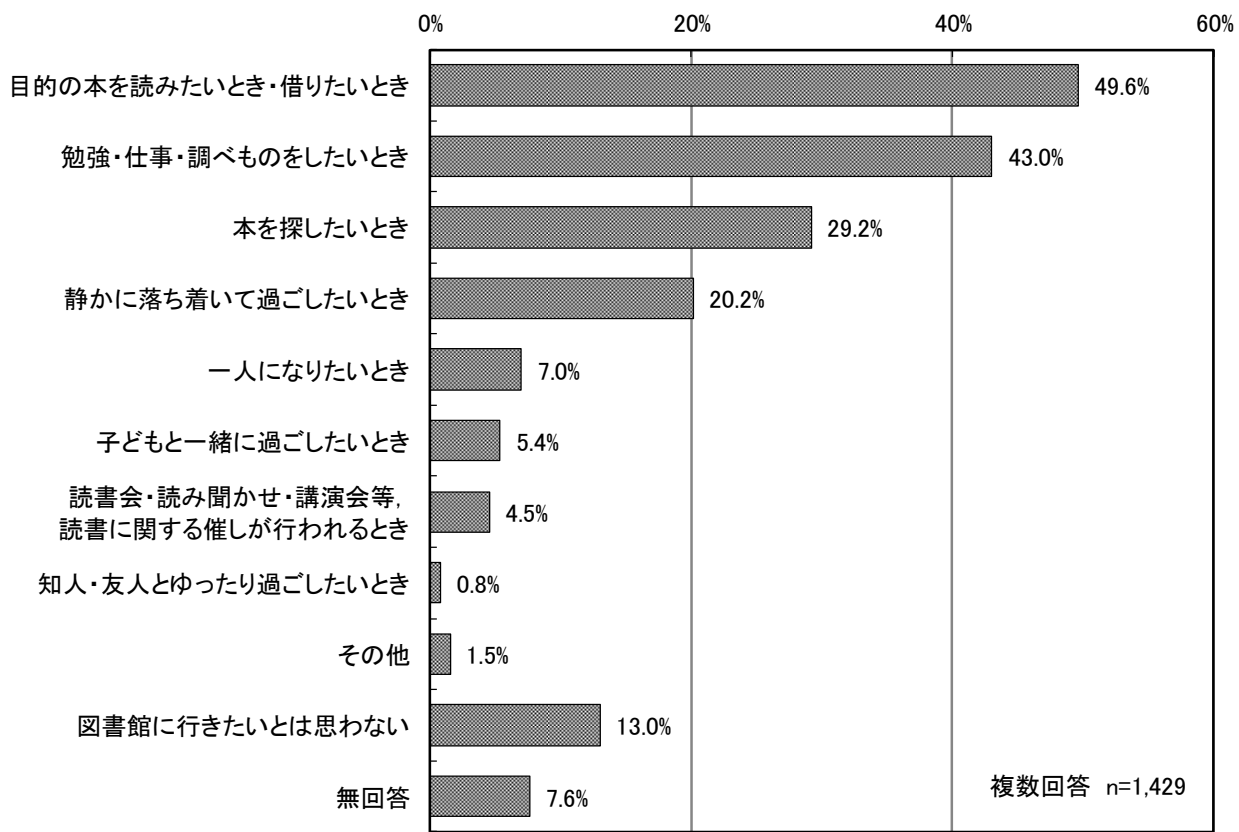
利用したことがある、充実してほしい図書サービス（問 24）

利用したことがあるもの、充実してほしいもの、どちらも「①山内図書館等の横浜市立図書館」が最も多い。



図書館を利用したい時（問 25）

「目的の本を読みたいとき、借りたいとき」が約5割で最も多く、次いで「勉強・仕事・調べものをしたいとき」が4割強、「本を探したいとき」が約3割となっている。

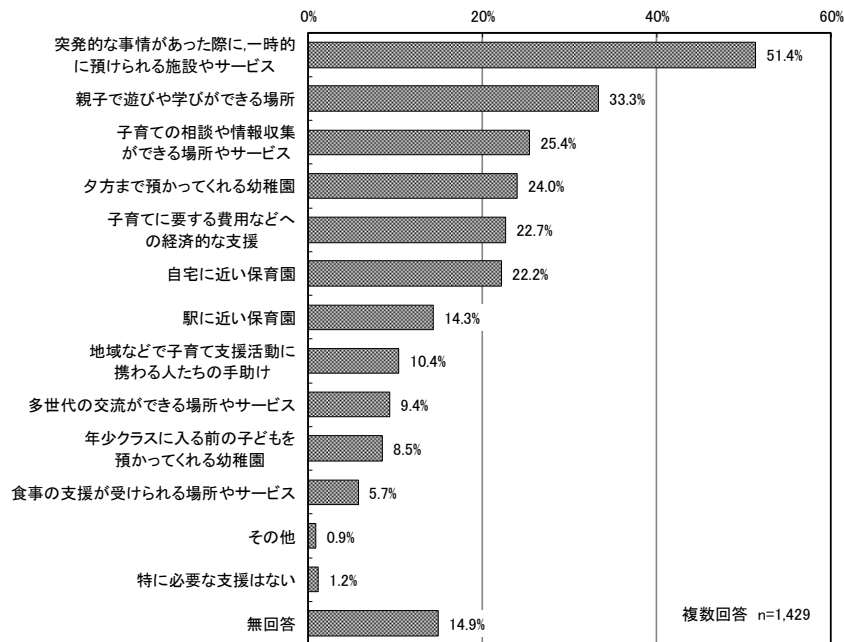


7. 子ども・子育て支援について

未就学児や小学生がいる家庭に必要な支援（問 26）

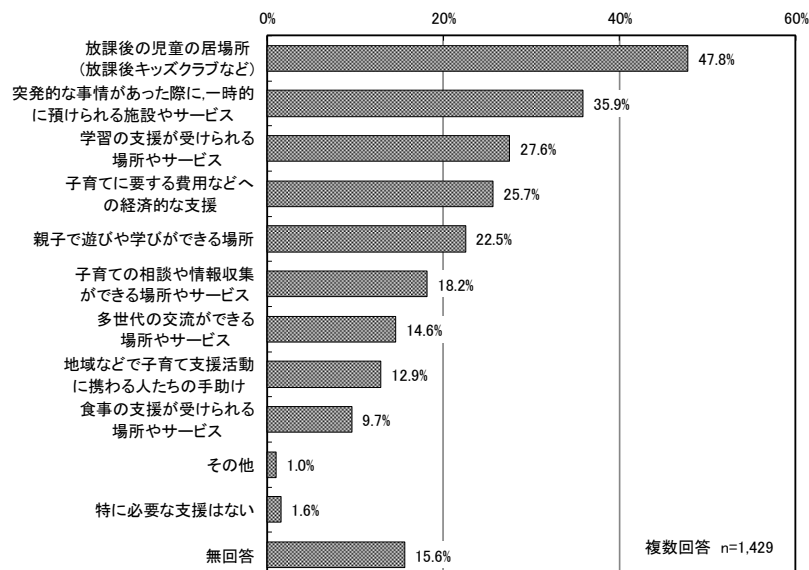
<未就学児>

「突発的な事情があった際に、一時的に預けられる施設やサービス」が5割強で最も多く、次いで「親子で遊びや学びができる場所」が3割強、「子育ての相談や情報収集ができる場所やサービス」、「夕方まで預かってくれる幼稚園」、「子育てに要する費用などへの経済的な支援」、「自宅に近い保育園」が2割台となっている。



<小学生>

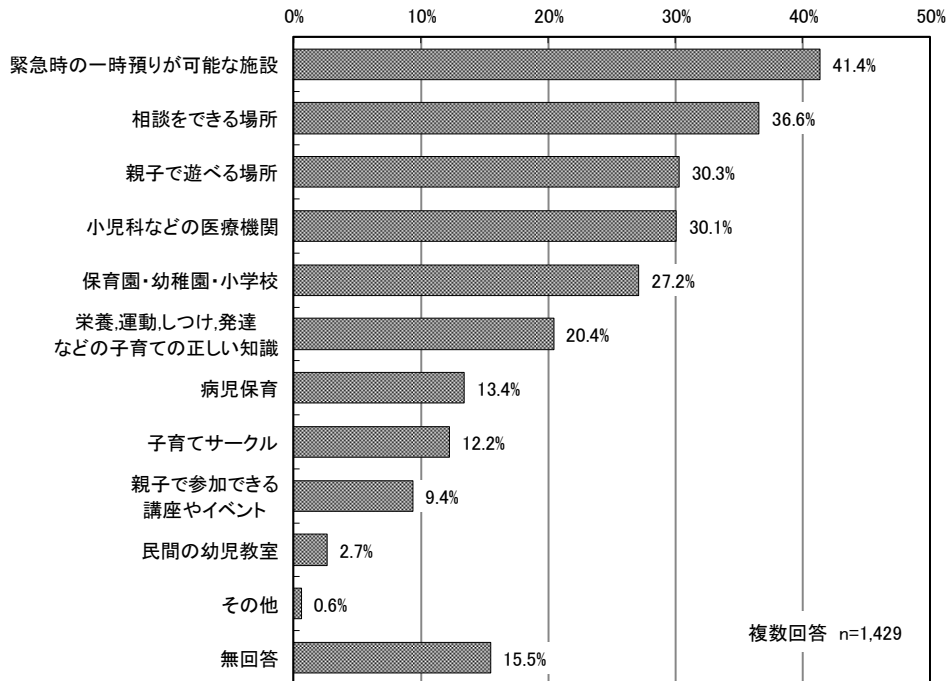
「放課後の児童の居場所（放課後キッズクラブなど）」が5割弱で最も多く、次いで「突発的な事情があった際に、一時的に預けられる施設やサービス」が4割弱、「学習の支援が受けられる場所やサービス」が3割弱となっている。



未就学児や小学生の子育てに必要な情報（問 27）

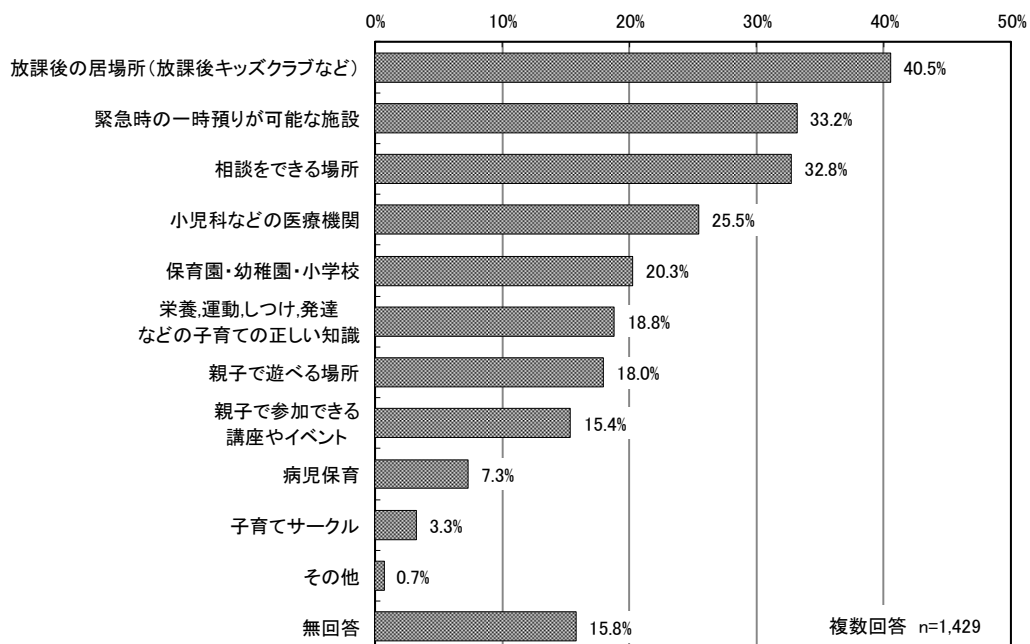
<未就学児>

「緊急時の一時預りが可能な施設」が4割強で最も多く、次いで「相談をできる場所」が4割弱、「親子で遊べる場所」、「小児科などの医療機関」が約3割となっている。



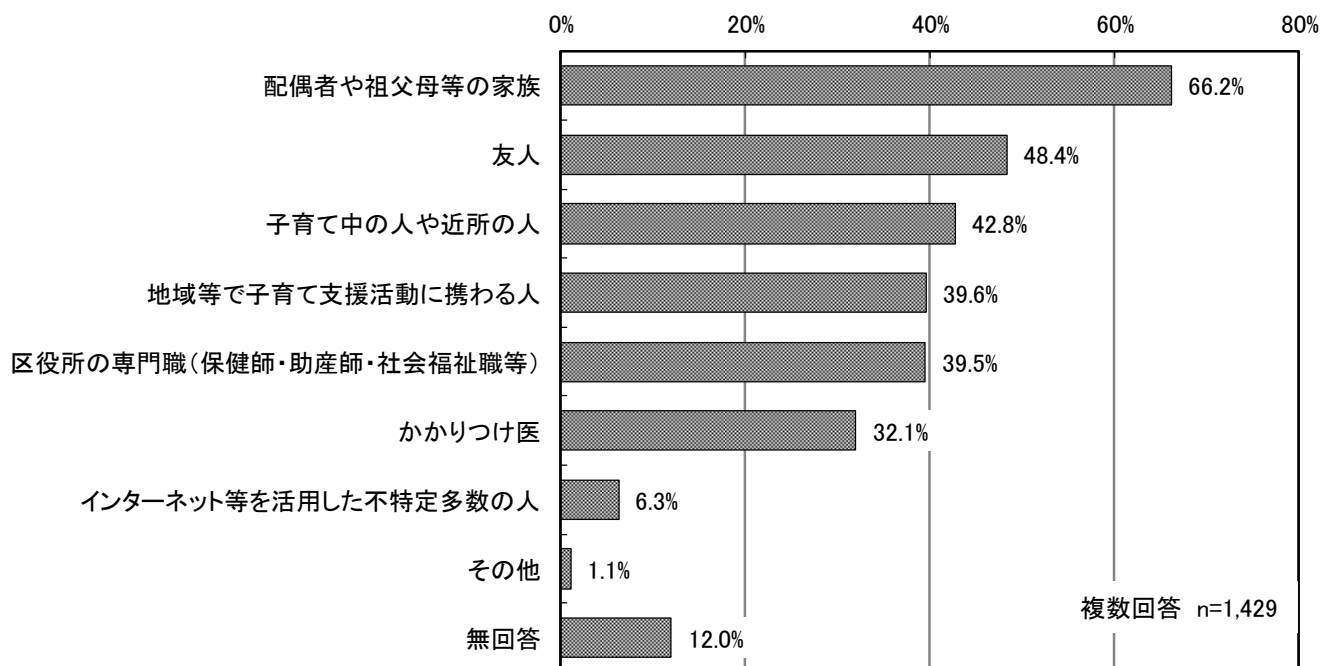
<小学生>

「放課後の居場所（放課後キッズクラブなど）」が約4割で最も多く、次いで「緊急時の一時預かりが可能な施設」、「相談をできる場所」が3割強となっている。



子育ての悩みの相談先（問 28）

「配偶者や祖父母等の家族」が7割弱で最も多く、次いで「友人」が5割弱、「子育て中の人や近所の人」が4割強、「地域等で子育て支援活動に携わる人」、「区役所の専門職（保健師・助産師・社会福祉職等）」が約4割となっている。

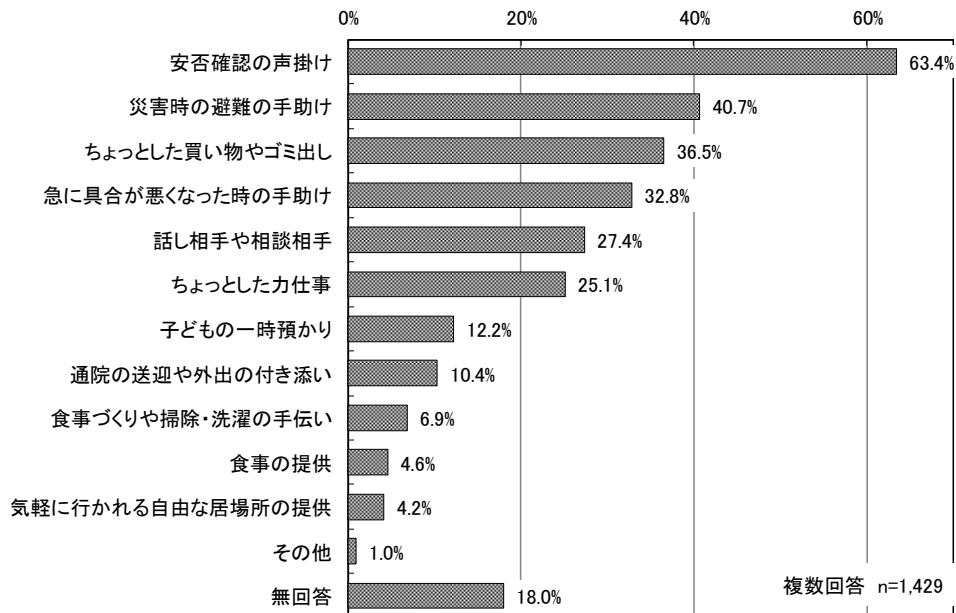


8. 地域の福祉保健活動・認知症について

手助けができること、手助けしてもらいたいこと（問 29）

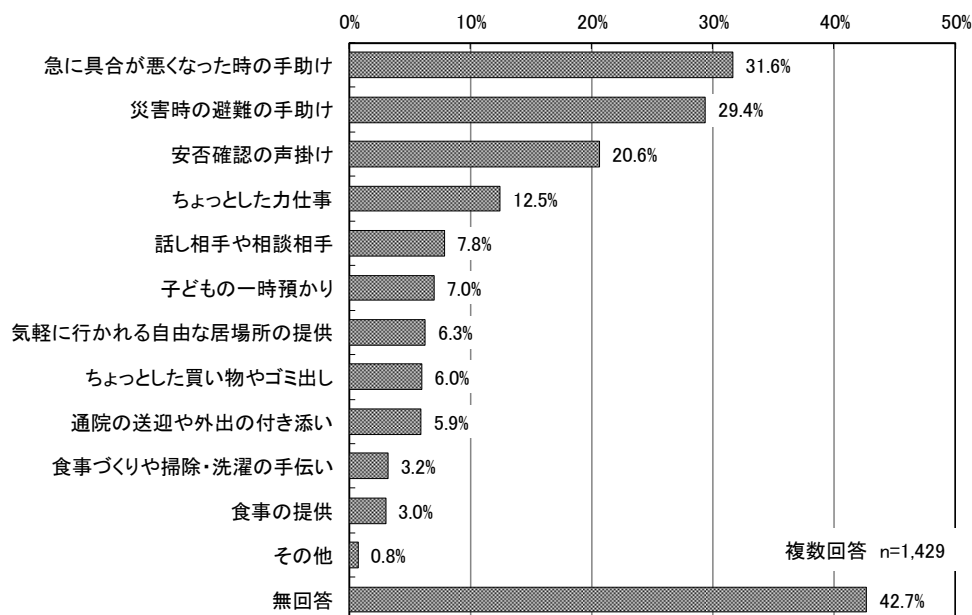
<手助けができること>

「安否確認の声掛け」が6割強で最も多く、次いで「災害時の避難の手助け」が約4割、「ちょっとした買い物やゴミ出し」、「急に具合が悪くなった時の手助け」が3割台となっている。



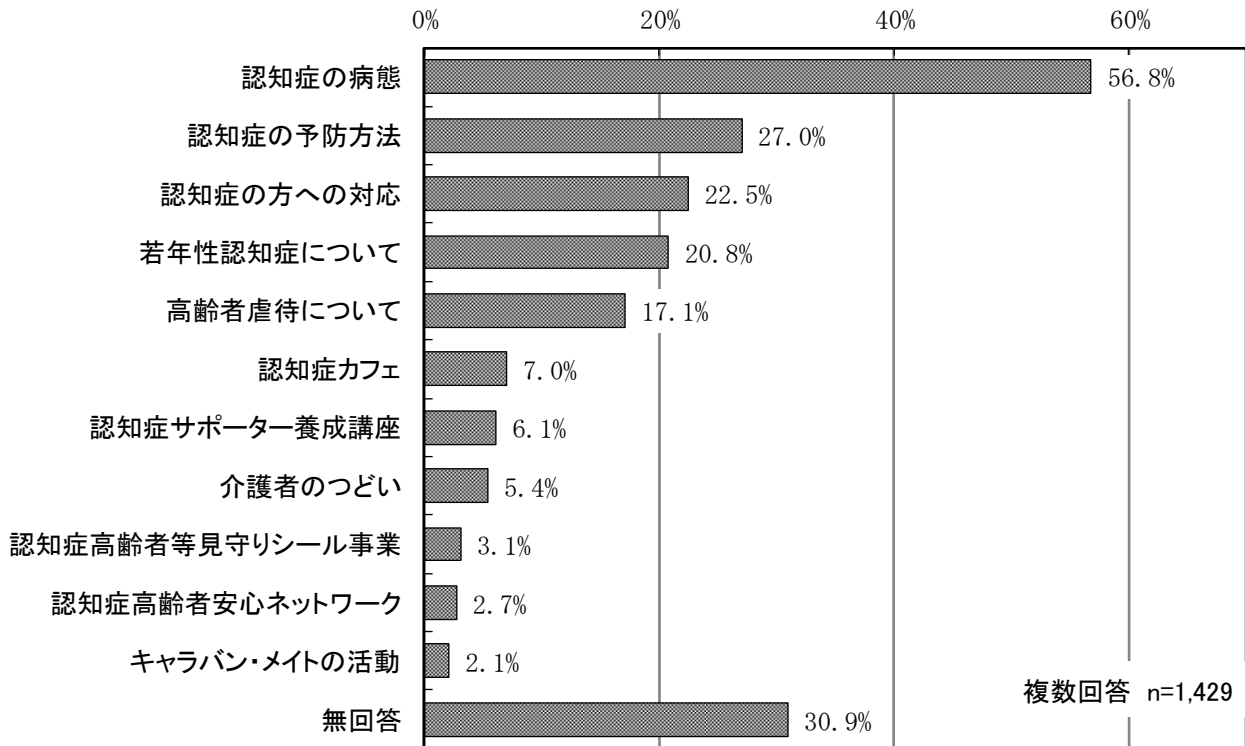
<手助けしてほしいこと>

「急に具合が悪くなった時の手助け」が3割強で最も多く、次いで「災害時の避難の手助け」が約3割、「安否確認の声掛け」が約2割となっている。



認知症・介護者支援で理解していること（問 30）

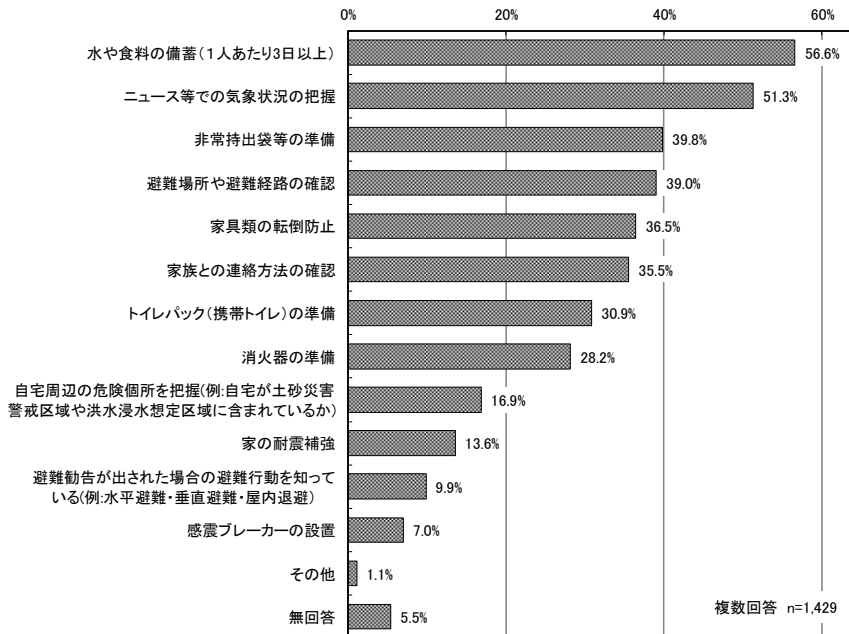
「認知症の病態」が6割弱で最も多く、次いで「認知症の予防方法」、「認知症の方への対応」、「若年性認知症について」が2割台となっている。



9. 防災・防犯について

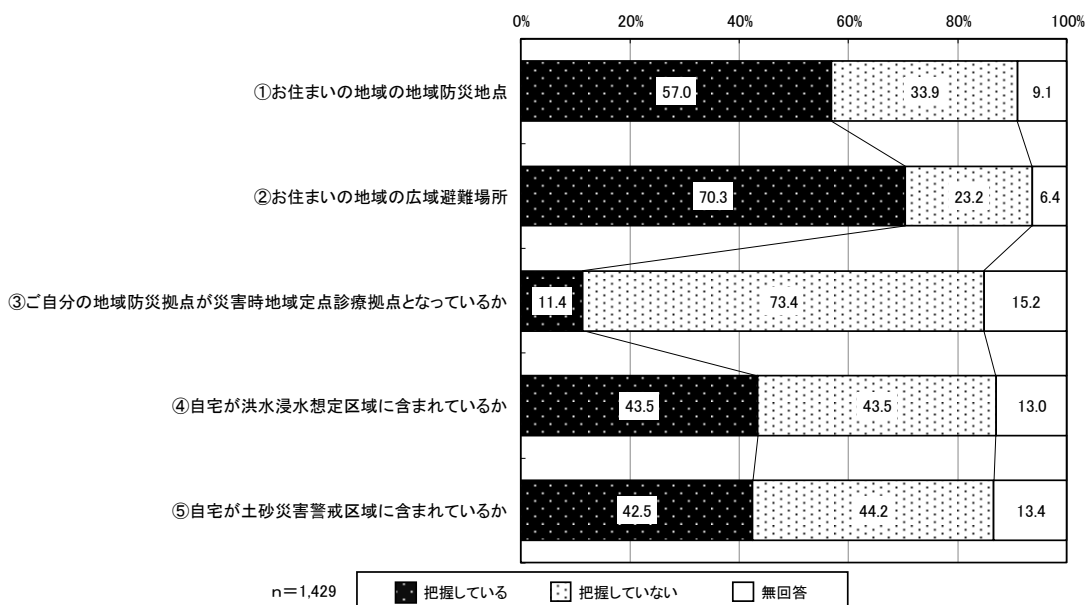
実施している防災対策（問 31）

「水や食料の備蓄（1人あたり3日以上）」が6割弱で最も多く、次いで「ニュース等での気象状況の把握」が5割強、「非常持出袋等の準備」、「避難場所や避難経路の確認」が約4割となっている。



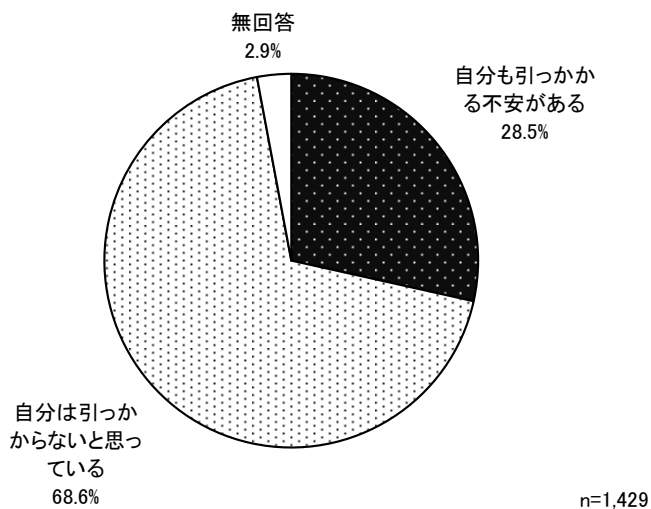
地域防災拠点等の把握状況（問 32）

把握状況は、「地域防災拠点」が6割弱、「広域避難場所」が約7割、「自身の地域防災拠点が災害時地域定点診療拠点となっているか」が1割強、「自宅が洪水浸水想定区域に含まれているか」、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているか」が4割強となっている。



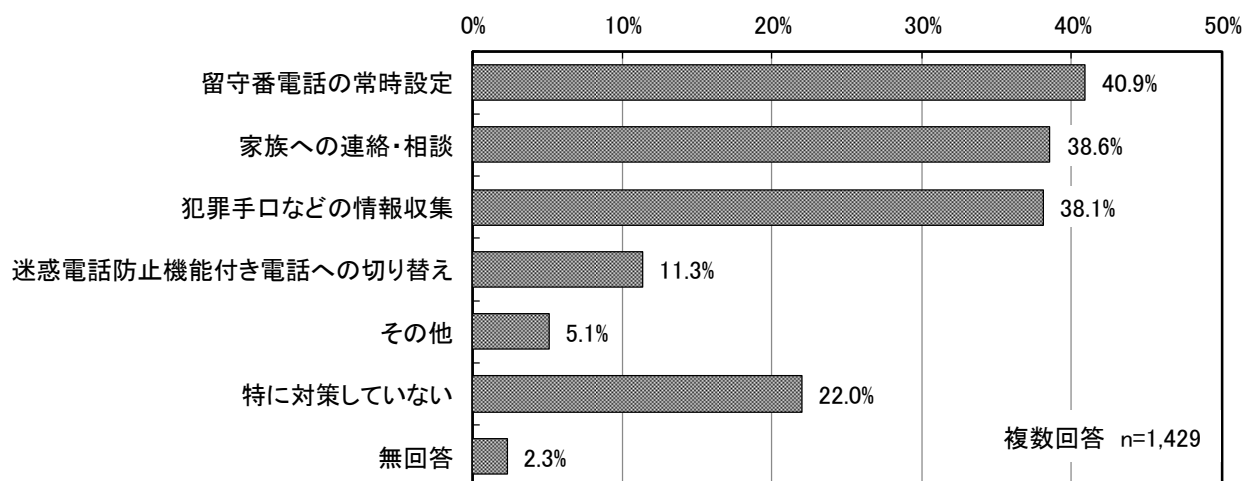
振り込め詐欺の被害について（問 33）

「自分は引っかけからないと思っている」が7割弱の一方で、「自分も引かかる不安がある」は3割弱となっている。



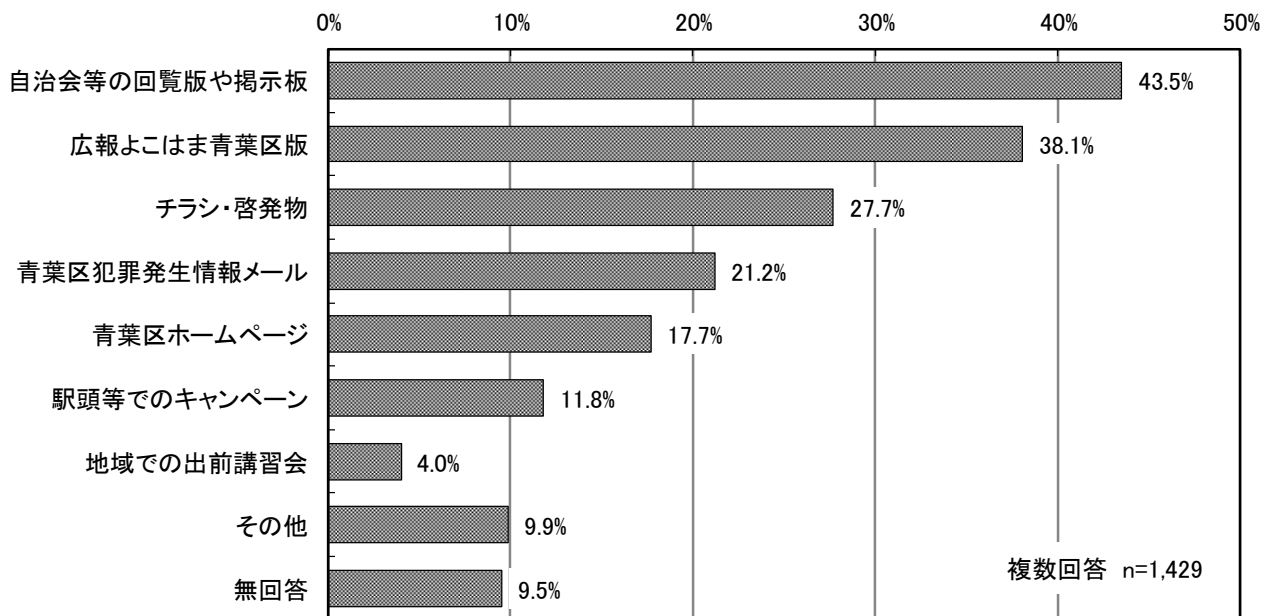
振り込め詐欺被害対策（問 34）

「留守番電話の常時設定」が約4割で最も多く、次いで「家族への連絡・相談」、「犯罪手口などの情報収集」が4割弱と続く。一方で「特に対策していない」が2割強となっている。



振り込め詐欺情報の入手先（問 35）

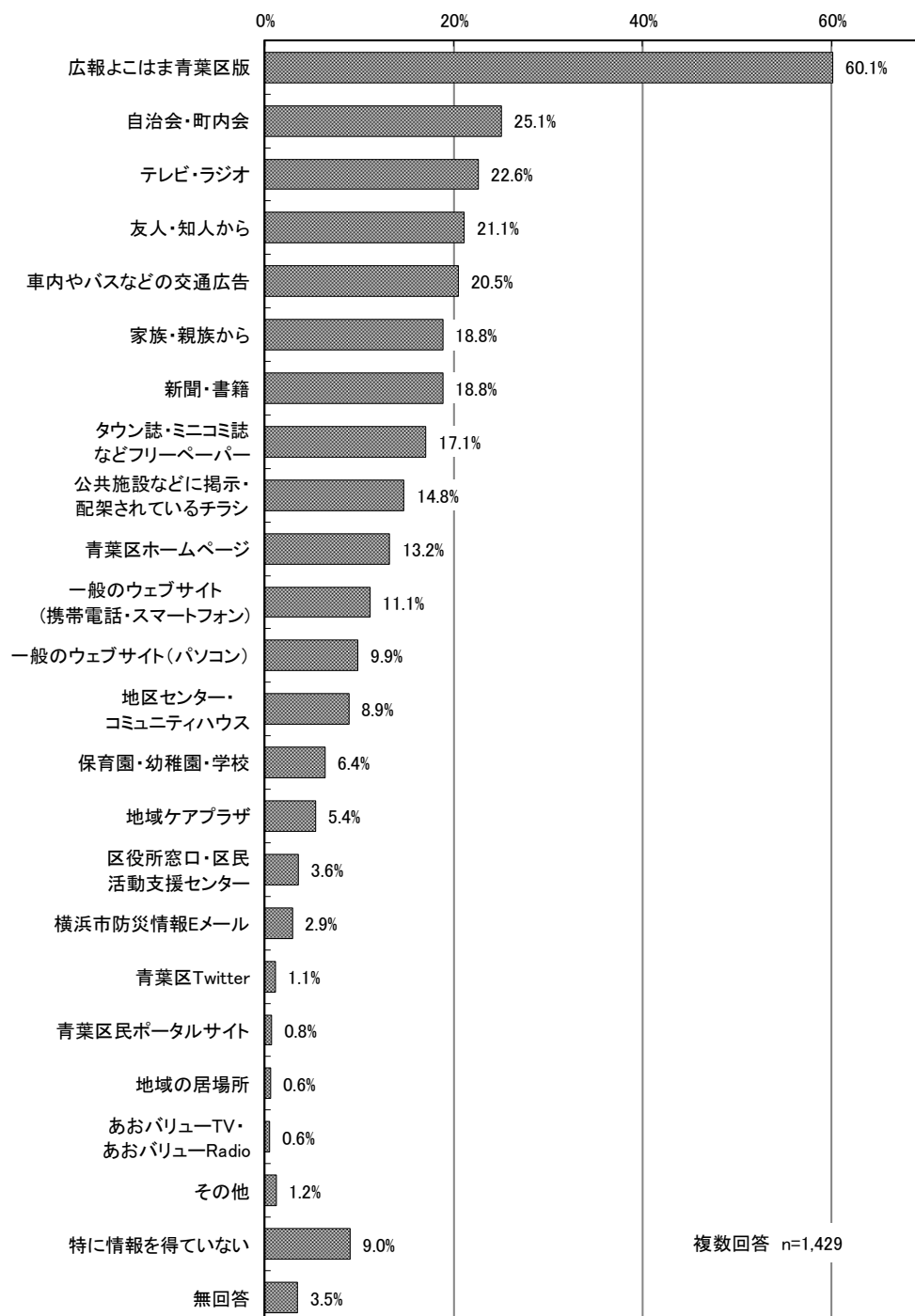
「自治会等の回覧板や掲示板」が4割強で最も多く、次いで「広報よこはま青葉区版」が4割弱、「チラシ・啓発物」が3割弱となっている。



10. 広報について

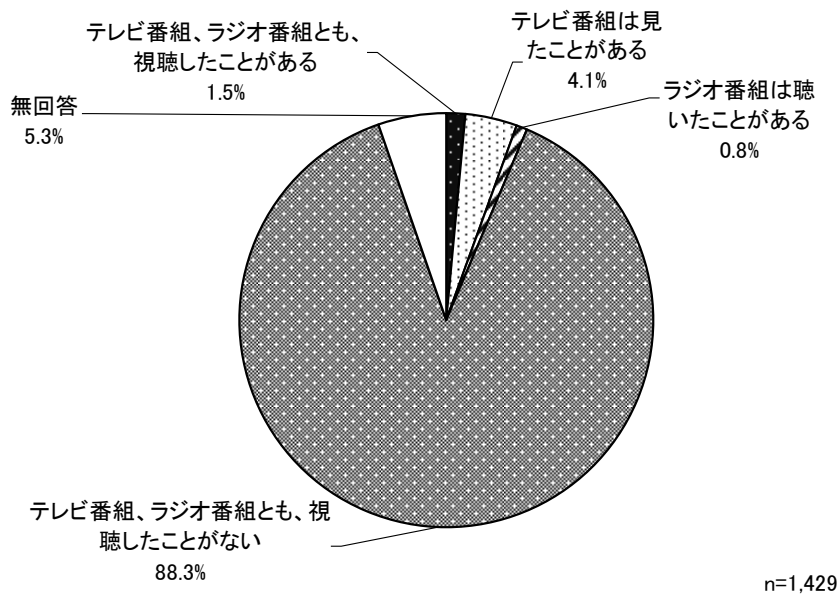
区内情報の収集方法（問 36）

「広報よこはま青葉区版」が約6割で最も多く、次いで「自治会・町内会」、「テレビ・ラジオ」、「知人・友人から」、「車内・バスなどの交通広告」が2割台で続く。



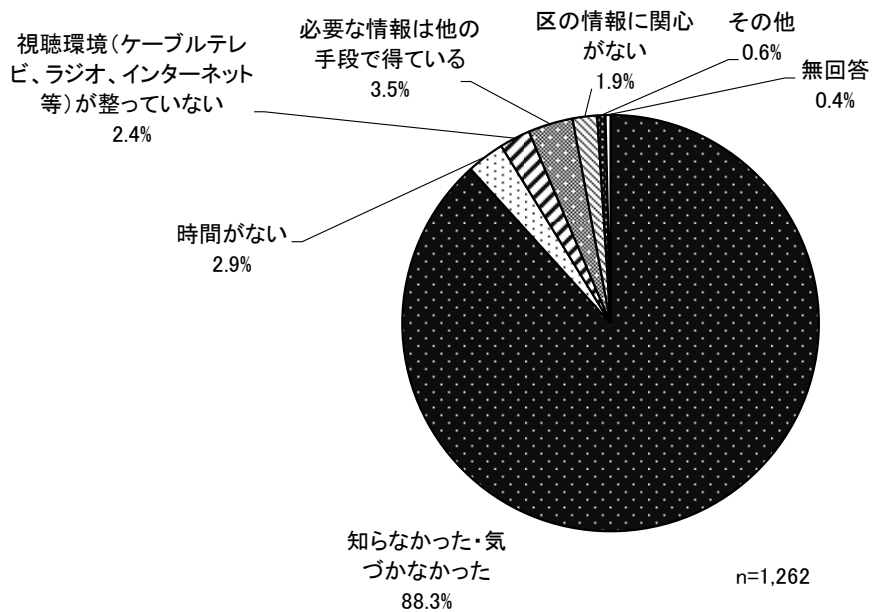
あおバリューTV・Radio 視聴の有無（問 37）

「テレビ番組、ラジオ番組とも、視聴したことがない」が9割弱を占めている。



あおバリューTV・Radio 視聴したことがない理由（問 37-1）

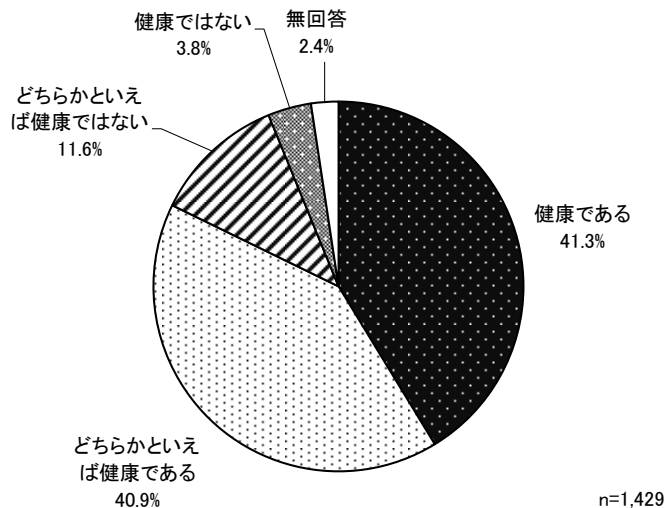
「知らなかった・気づかなかった」が9割弱を占めている。



11. 健康について

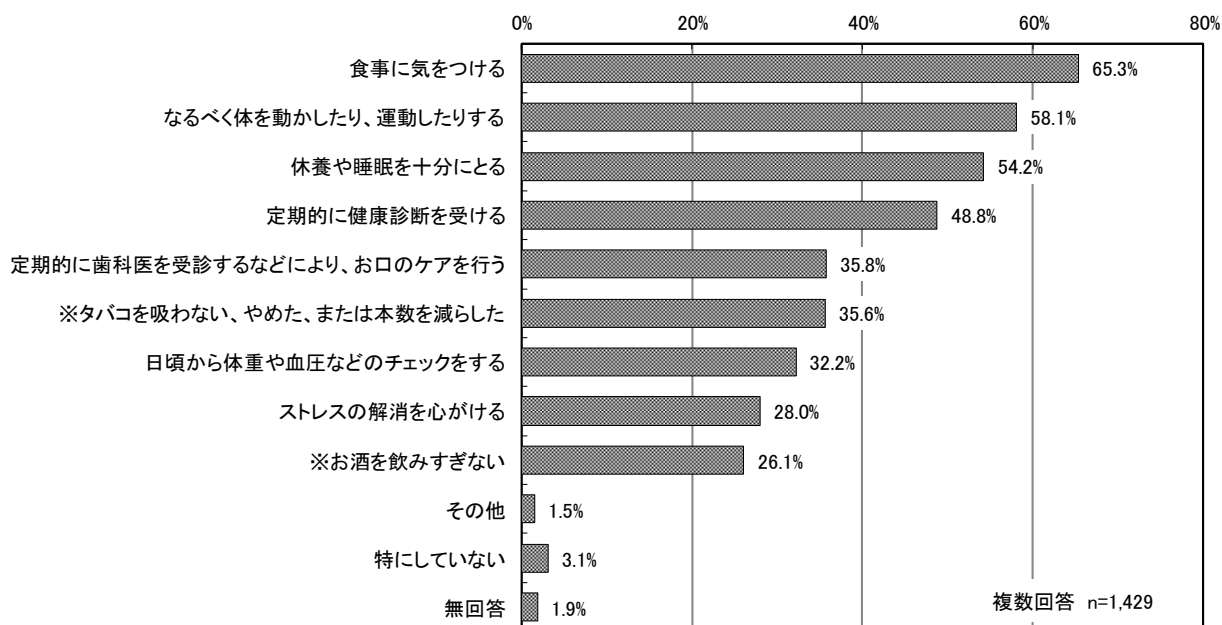
最近の健康状態について（問 38）

「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせると8割を超えている。



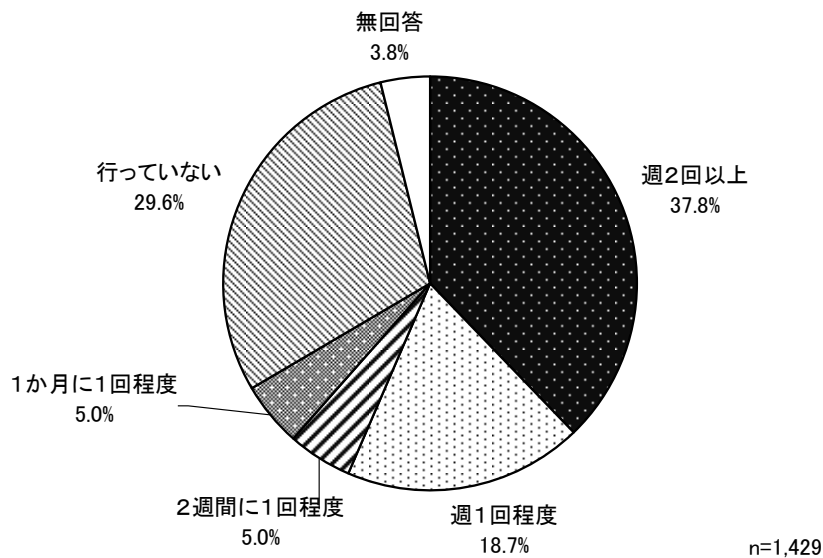
健康のために気を付けていること（問 39）

「食事に気をつける」が7割弱で最も多く、次いで「なるべく体を動かしたり、運動したりする」と「休養や睡眠を十分にとる」が5割台、「定期的に健康診断を受ける」が5割弱となっている。



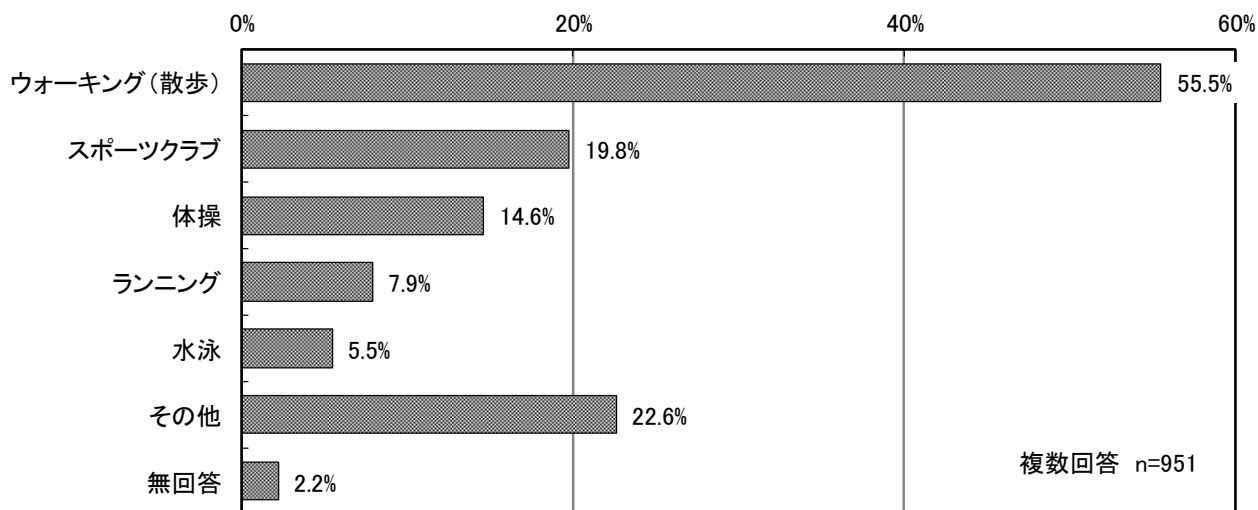
1回30分以上の運動の頻度（問40）

「週2回以上」が4割弱で最も多く、次いで「週1回程度」が2割弱で続く。一方で、「行っていない」が約3割となっている。



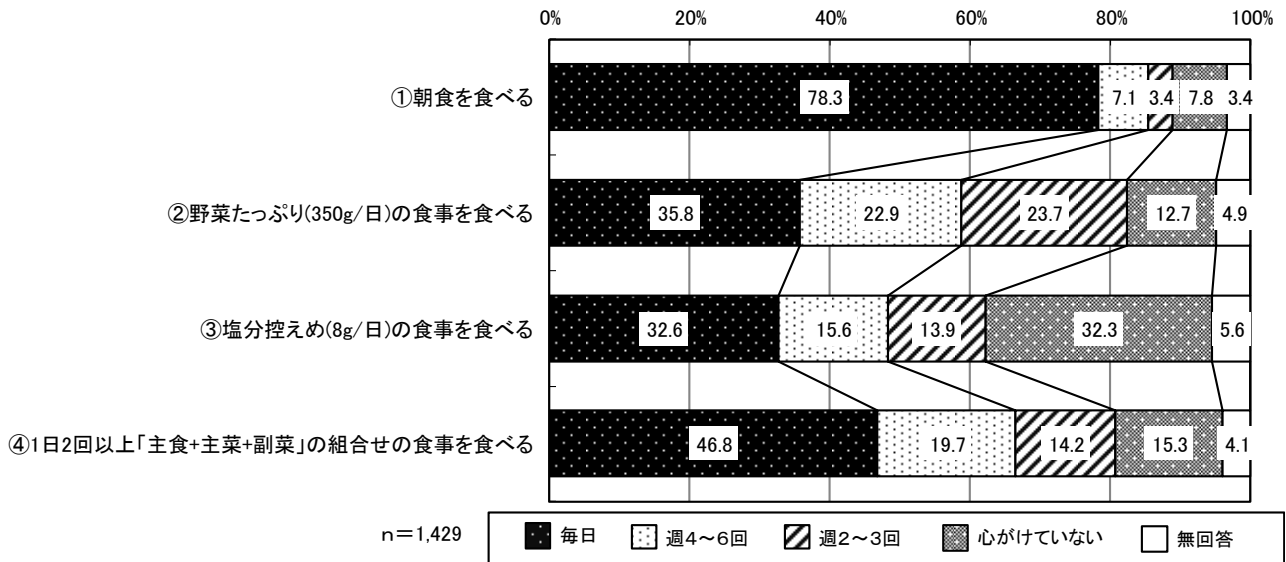
行っている運動の種類（問40-1）

「ウォーキング（散歩）」が6割弱で最も多く、次いで「スポーツクラブ」が約2割、「体操」が1割強となっている。



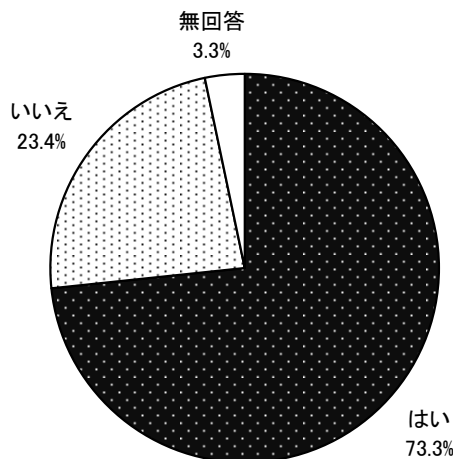
心がけている食事について（問 41）

全ての項目について「毎日」心がけているが最も多く、特に「①朝食を食べる」では8割弱、「④1日2回以上「主食+主菜+副菜」の組合せの食事を食べる」では5割弱となっている。
 一方で、「③塩分控えめ（8g/日）の食事を食べる」では3割強が「心がけていない」となっている。



歯周病と全身疾患との関連の認知について（問 42）

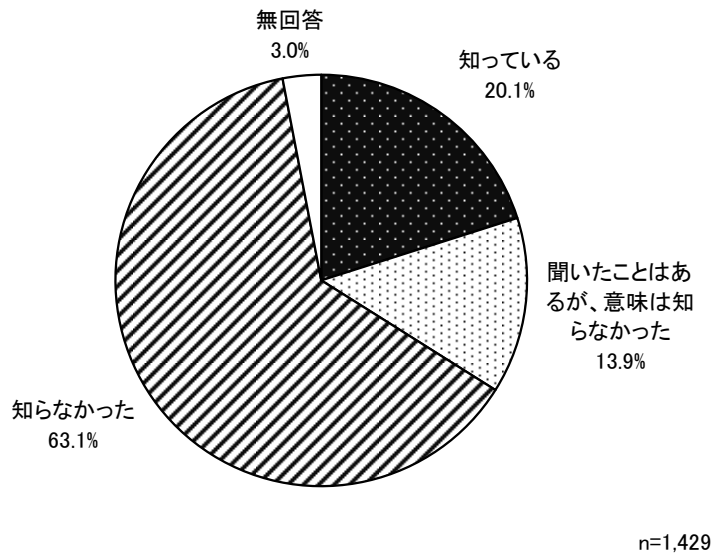
「はい」が7割強を占めている。



n=1,429

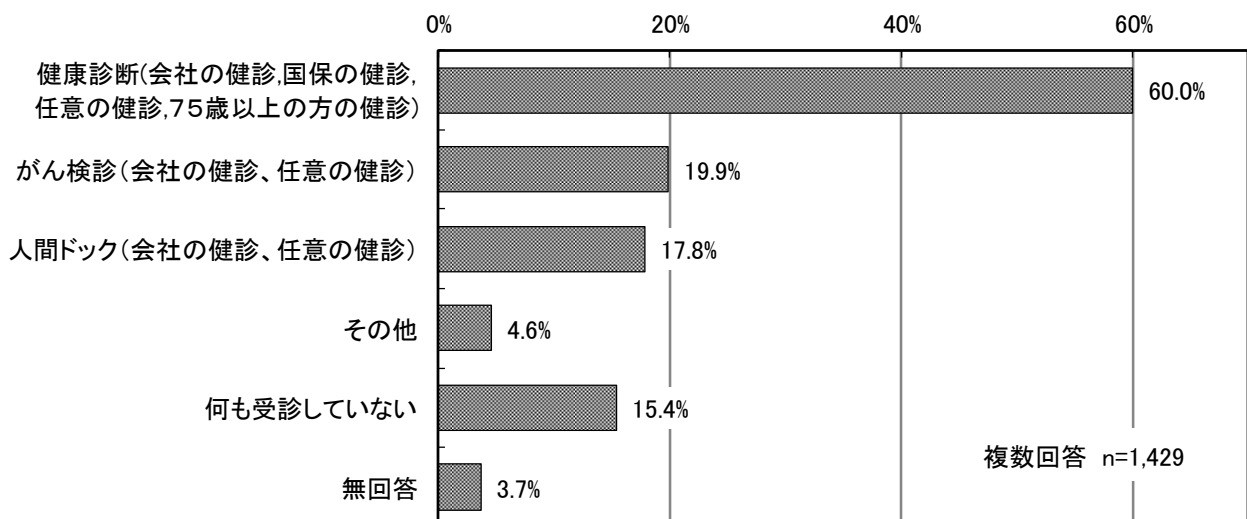
「オーラルフレイル予防」の知識（問 43）

「知らなかった」が6割強で最も多く、次いで「知っている」が約2割、「聞いたことはあるが、意味は知らなかった」が1割強となっている。



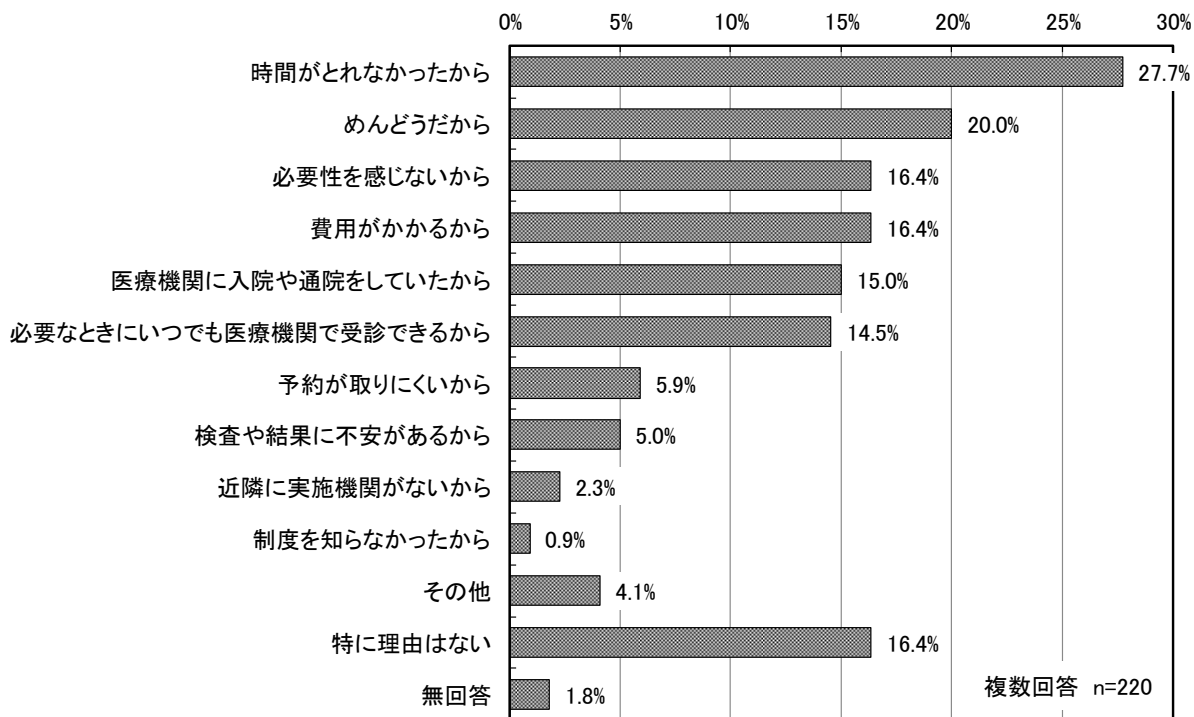
健診・検診の受診状況（問 44）

「健康診断（会社の健診、国保の健診、任意の健診、75歳以上の方の健診）」が6割で最も多く、次いで「がん検診（会社の健診、任意の健診）」が約2割、「人間ドック（会社の健診、任意の健診）」が2割弱となっている。一方で、「何も受診していない」は2割弱となっている。



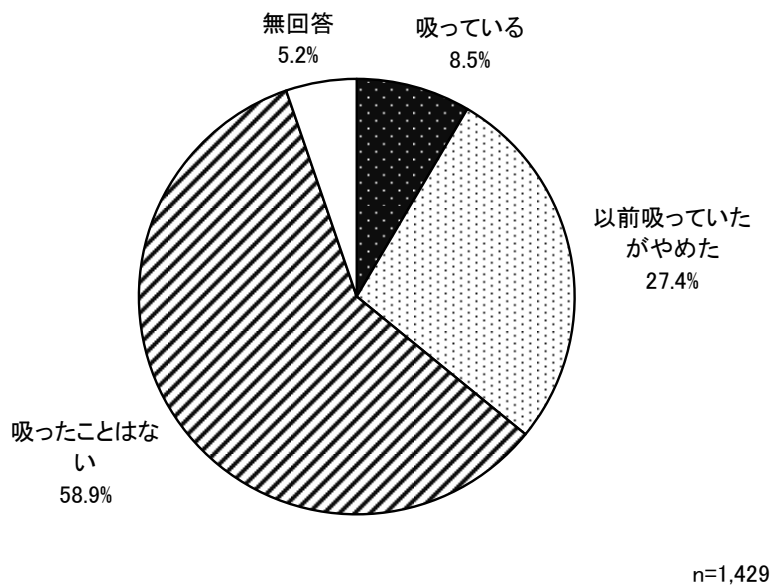
健診・検診を受診していない理由（問 44-1）

「時間がとれなかったから」が3割弱で最も多く、次いで「めんどうだから」が2割、「必要性を感じないから」「費用がかかるから」が2割弱となっている。



喫煙習慣の有無（問 45）

「吸ったことはない」が6割弱で最も多く、次いで「以前吸っていたがやめた」が3割弱、「吸っている」が1割弱となっている。



令和元年度 青葉区区民意識調査 調査結果 報告書 概要版

発行年月 令和 元 年 12 月

発 行 青葉区 総務部 区政推進課 企画調整係

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4

TEL 045 (978) 2216 FAX 045 (978) 2410